

令和3年度 事業・活動報告



社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会

目次

法人の事業・活動の概要	1 ページ
研究所	14
社会政策研究所	
相談	16
大阪育成会相談センター	
中	21
支援センター中	
ホームズ中央	
あまみ	30
支援センターあまみ	
ホームズあまみ	
い～な	40
ゲーテン	
ホームズみのお	
ホームズい～な	
さくら	52
支援センターさくら	
ホームズさくら・なでしこ	
就労支援統括センターみいーん	
しらすぎ	68
支援センターしらすぎ	
ホームズしらすぎ	
ねぎぼうず	76
支援センターねぎぼうず	

法人の事業・活動の概要（案）

法人の経営理念

みんなが みんなと みんなへ「手をつなぐ」

ロゴマーク つなぐちゃん



みんなが みんなと みんなへ「手をつなぐ」の理念を、
つなぐちゃんマークとともに毎月発行の情報紙「太陽の子」の冒頭に掲げました。

法人の事業・活動報告

令和3年度も新型コロナウイルス感染症のまん延は収まらず、一年を通して感染予防への留意を行いながら、新しい生活様式になった事業展開を模索し続けてまいりました。国からの緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの発令に併せて、育成会活動や事業においては活動中止も含めて一定の制約をせざるを得ない状況がありました。そんな中ではありましたが、新型コロナウイルス感染症への理解や対策を積み上げながら、社会情勢を鑑みつつ諸活動を徐々に広げていくといったウイズコロナのステージへと順応してきたところです。

活動面においては、コロナ禍の中でのコミュニケーションツールとしてスタンダードとなりつつあるWEBを最大限活用し、支部代表者連絡会に代わる情報発信やわかりたすくセミナーの配信、育成会活動本部会議の実施など、支部活動活性化への糸口ともいえる取組を行いました。とりわけ、第60回近畿知的障がい者福祉大会（東大阪大会）の実施については、会場参加とともに、WEB配信による参加も含めたハイブリッド開催とし、新しい大会開催様式を提案しました。また、ホームページに関しては4月当初の改訂運用とともに、情報更新手続きの簡素化による機動性の確保や、会員などが限定的に活用できる仕組みを構築し、情報発信についての強化を行いました。

事業面では、年間を通して感染予防の取組を各事業で行うとともに、感染予防物資の確保備蓄、ワクチン接種支援、感染症に関わる通院支援などに取り組みました。令和3年年明けからの第6波では感染者が急増し、法人内事業所においても利用者、職員に感染者が発生しました。入院が叶わず自宅療養を強いられる中、グループホームにおいてはその陽性者支援にも取り組みました。他方で、グループホームでの生活の質の向上をねらい、定員や住居などの再編を引き続き行いました。支援センターい〜なにおいては、法人プロジェクトチームによる検討会を行い、事業運営全般の改善に取り組みました。他、就労継続支援B型事業の新規開設や、非会員向けの就労支援啓発セミナーの実施、支援センターしらさぎ建替え再整備の検討を開始するなど、新たな事業にも着手しました。

経営面においては、感染症および自然災害に備えて事業継続計画（BCP）の作成に取り組み、有事には利用者の生活を守るべく、事業を極力休止することのないよう備えに努め

ました。7月には事業継承、感染症、虐待防止、個人情報保護の各種委員会を設置開催し、経営に関わるリスクへの備えを行いました。また、理事、監事について理事会の議決による損害賠償責任の一部免除と役員等の責任限定契約についてを定款に定めました。他方、人材確保育成については、長年据え置いてきたグループホームスタッフ（世話人）の給与改善に取り組むとともに、政府方針に応じた職員への処遇改善を行いました。さらに、人事考課制度を改訂施行するとともに、半期の実績を鑑み再度改訂作業を実施しました。また、効率的な事業運営による経営戦略として、相談支援事業の集約、就労系事業の定員見直し、各事業定員の充足などにも取り組みました。外部社債にて運用していた資産について満期を迎えたので、野村證券円建社債や野村 SMA による資産活用に取り組みました。

このような中、26年4月策定の大阪手をつなぐ育成会将来構想ふろむわん＝つな^ぐgood計画に基づく6つの重点分野に加え、令和元年度に新たに2つを追加し、以下のとおり8つの事項を定め、各種事業を実施しました。

- ・安心安全の地域生活支援
- ・働くことの質をささえる就労支援
- ・豊かな感動を生む芸術やスポーツへの支援
- ・周囲の人々に適切に理解される家族支援
- ・具体的で実効性のある意思決定支援
- ・人としての生活を保障する所得保障支援
- ・職員との対話を重視した事業運営
- ・収支の均衡を図った事業運営

法人の具体的な事業を大阪手をつなぐ育成会将来構想の5つの事業部門（生活支援、就労支援、人材支援、地域支援、法人・団体支援）に沿って報告します。

まず、生活支援部門では、感染症に対応するべく、予防、ワクチン接種、感染者対応など様々な支援を行いました。グループホームでは、ホームズ中央、ホームズい～なにおいて、利用者の状態に合わせて、ホーム間転居などを行い、ホームの再編を行いました。また、ホームズみのおを中心に、その支援の質を向上させるべく、法人プロジェクトチームを結成し検討を重ね、設備、支援、組織という切り口で成果を得ることができました。また老朽化による雨漏りなどへ対応するために、支援センターさくら南棟屋根の大規模改修を行いました。同じく建物設備が老朽化している支援センターしらさぎの建替えについて、今後整備を進めていく前提で検討会をスタートさせました。併せて、感染症や自然災害が発生した場合の備えとして、事業継続計画（BCP）を各所にて作成し、虐待防止とともに、法人における委員会を設置運営しました。

次に就労支援部門では、本年も引き続き就労支援統括センターみいーんを中心に、法人内就労支援の質の標準化に向けて、就労担当者基礎研修（WEBによるリモート実施）、T-TAPやSSTといった支援スキルの向上を目指し、法人内で横断的に取り組みました。支援センターさくらにおいては、就労継続支援B型事業を新規開設し、既存のA型事

業や就労移行事業などと連携させ、さくら独自の就労支援の形を提唱し実績を得ることができました。また、主に支援学校保護者を対象として、非会員向けの就労支援啓発セミナーをシリーズで2回実施し、社会における障害者雇用を促進するための啓発を行いました。

人材支援部門では、年間を通して「わかりたすくセミナー」のWEB配信を行いました。就労支援、生活支援、権利擁護、社会参加、活性化の各カテゴリーにおいて、会員同士の研鑽交流を行いました。とりわけ活性化セミナーにおいては、大阪府への要望について会員相互の思いを引き出し、当事者の声をより反映させた要望事項の整理を行いました。人材の確保育成においては、担当者による学校訪問や啓発機関紙送付対象を拡大するなど、新卒人材の確保策を強化しました。また、職員の業務業績を適正に評価するべく、人事考課制度を改訂施行し、半期の実績を基に内容の適正を検証し、さらに改訂を加える作業を行いました。また、国の処遇改善特例交付金を申請受給し職員への処遇改善を行いました。

地域支援部門では、相談支援事業の再編を行い、大阪育成会相談センターとして、支援センターあまみを拠点として、一定の事業集約に着手しました。また、更生相談について実施拠点を設け、臨機に対応できる体制を整えました。9月には東大阪市において、第60回近畿知的障がい者福祉大会をリアル参加とWEBによるライブ配信のハイブリッド形式で実施し、コロナ禍の中で昼食設定を行わない午後開催など、新しい開催様式を提案しました。また、関西空港リノベーション検討会や、大阪関西万博ユニバーサルデザイン検討会へ参画し、知的障害児者に配慮したインフラ等を提言しました。また、全国手をつなぐ育成会連合会の本人活動支援委員会を受け持ち、オンラインによる他府県本人の会との交流会のモデル実施を行うなど、今後の活動を見据えた取り組みを行いました。

法人団体支援部門では、引き続き大阪府における各種審議会に参画しています。そんな中、新たに大阪府における支援教育の充実策の検討に参画しました。近畿手をつなぐ育成会連絡協議会事務局を引き続き担い、WEBによるリモート会議を6回実施し、コロナ禍での連携継続を模索しました。全国手をつなぐ育成会連合会の感染予防物資提供事業に協力し、近畿の育成会会員へ物資を届ける事務を行いました。また、ODF（大阪障害フォーラム）、堺市相談支援ネット、エル・チャレンジといった関係団体へも引き続き参画しています。

今後も、大阪手をつなぐ育成会将来構想「ふろむわん＝つな^{グッド}good計画」を軸に、知的障害者への支援に取り組み、誰もが住みやすい社会づくりに、引き続き会員や職員、関係者の力を結集していくことにしています。

法人の行動指針

○ノーマライゼーションの浸透

障害があってもなくてもあたり前に暮らすこと。知的な障害のある人やその家族にとってあたり前に暮らすとは、その当事者と同世代同性の多くの人々の暮らしをそのまま実現することです。家庭や地域、学校、職場などで適切に参加するための支援を具体化

することです。

○エンパワメントの確立

知的な障害のある人やその家族の思いを大切に、その人らしさや機能の可能性を最大限に引き出すこと。残念ながら現状の社会は知的な障害を否定的に捉え、抑圧を加えたり体験の機会を奪ったりしてしまいます。このことがらに気づき、その人らしさや持ち合わせている力を発揮できる条件を整えることです。

○アドボカシーの推進

周囲の不当な侵害からその人の権利を擁護すること。組織や社会が有しているストレスや軋轢は、弱い立場の人に向かいそのはけ口となりやすい構造になっています。地域にしっかりとしたセーフティネット（安心網）を張り巡らし権利擁護を進めていくことが必要です。

○マネジメントの活用

ニーズと資源を適切に把握した経営・管理をすること。限られた財源や資源の中で、それらを有効に活用することが組織にも、制度にも、また社会や地球環境にも求められています。安定的な持続可能な仕組みを維持するために視野を広くして事業運営することです。

組織図

評議員会——育成会活動本部会議——支部組織・会員

| (わかりたくすセミナー：支部代表者連絡会、就労支援、生活支援、社会
| 参加、権利擁護、活性化、本人部会)

理事会

| ——将来構想推進委員会・情報管理委員会・虐待防止委員会・事業継続（防災含）
| 委員会・感染症対策委員会・苦情解決第三者委員ほか

理事長

常務理事——事務局長

| —事務局 管理部（総務、人事、企画）、事業部（生活支援、就労支援
経営会議 | 相談支援）、活動部（育成会活動、地域貢献）

| —社会政策研究所

所長会議

| わかりたすく工房

| —支援センター中（生活介護・就労継続支援B型）

| ホームズ中央（グループホーム）

| ヘルパーステーションなか（居宅介護・移動支援）

| 相談中央分室（相談支援・保育所等訪問・早期療育支援）

| —支援センターあまみ

| あまみ・ピカ☆イチ（就労継続支援B型・就労定着支援）

| 訪問型職場適応援助者

- | ホームズあまみ(グループホーム)
- | 大阪育成会相談センター(相談支援)
- | —支援センターい〜な
- | ゲーテン(生活介護)
- | ホームズみのお(グループホーム)
- | ホームズい〜な(グループホーム)
- | ヘルパーステーションかやの(居宅介護・移動支援)
- | 相談みのお分室(相談支援、居宅介護支援)
- | —支援センターさくら
- | 就労移行支援・自立訓練・就労継続支援B型・就労継続支援A型(スワンカフェ&ベーカリー大東店)・就労定着支援事業部
- | ホームズさくら(グループホーム)
- | ホームズなでしこ(グループホーム)
- | 就労支援統括センターみいーん
- | 障害者就業・生活支援センター
- | 相談さくら分室(相談支援)
- | 訪問型職場適応援助者
- | —支援センターしらさぎ
- | 就労移行支援・就労継続支援B型・自立訓練・就労定着支援事業部
- | 訪問型職場適応援助者
- | ホームズしらさぎ(グループホーム)
- | —支援センターねぎぼうず(生活介護)

組 織

8ブロック(北大阪、北河内、中河内、南河内、堺市、泉州、大阪市、本人の会)に計44支部を組織しています。

支部会員 1,814名 個人会員 35名 団体会員 1団体

プレミアム会員 1名 賛助会員 15名 団体賛助会員 2団体

(令和4年3月末現在)

会員の意識高揚と意思の疎通を図りながら、連帯を深めつつ組織を通じて効果的な活動を進めるとともに、賛助会員を積極的に募り、会活動の支援と活性化を図りました。また、会費による財政基盤の確保を図り、本会事業・活動の啓発活動を推進して、寄付金、助成金の確保に努めました。

助成金・寄付金・寄贈品

行政や助成団体等から、多額の助成金やご寄附・ご寄贈をいただきました。ありがとうございます。主なものは、ジェイアイシーウエスト株式会社様から 300,000 円、株式会社小松製作所様から 100,000 円をはじめ、大阪府被服工業組合様より作業服、合計 24 件の個人や企業・団体様からの寄付金合計 4,123,050 円をいただきました。なお、共同募金からは令和 2 年 10 月に実施された NHK 歳末たすけあい募金の配分金として 2,180,000 円をいただいています。ご寄付いただきました府民の皆さまに感謝いたします。重ねてお礼申し上げます。（コロナ関連については後述）

行政や助成団体等から、多額の助成金やご寄附・ご寄贈をいただきました。ありがとうございます。

活 動

理事会（定数 12 名） 4 月 15 日、5 月 26 日、6 月 10 日、7 月 15 日、8 月 19 日、10 月 14 日、11 月 18 日、1 月 13 日、3 月 10 日、3 月 29 日の計 10 回開催しました。

評議員会（定数 14 名） 6 月 10 日、9 月 16 日、12 月 9 日、3 月 29 日の計 4 回開催しました。

評議員選任解任委員会 実施はなし

育成会活動本部会議 4 月 13 日、5 月 11 日、6 月 8 日、7 月 13 日、8 月 10 日、9 月 14 日、10 月 12 日、11 月 9 日、12 月 14 日、1 月 11 日、2 月 8 日、3 月 8 日の計 12 回開催しました。

大阪府市育成会役員懇談会 10 月 12 日

将来構想推進委員会 大阪手をつなぐ育成会将来構想「ふろむわん＝つな^ぐgood計画」の進捗管理を 3 月 29 日の理事会で行いました。

経営会議 4 月 15 日、5 月 13 日、5 月 26 日、6 月 10 日、7 月 1 日、7 月 15 日、8 月 19 日、9 月 16 日、10 月 14 日、11 月 4 日、11 月 18 日、12 月 9 日、1 月 13 日、1 月 25 日、2 月 10 日、3 月 10 日の計 16 回開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策法人本部会議 4 月 19 日、5 月 13 日、8 月 2 日、9 月 29 日、1 月 17 日、1 月 25 日、2 月 22 日

情報管理委員会 7 月 29 日に実施しました。苦情解決事案およびヒヤリハット等について報告を行いました。

事業継承、感染症対策、虐待防止委員会 7 月 29 日に実施しました。各事業所における事業継続計画を共有しました。虐待認定事案とヒヤリハットなどを共有しました。

苦情解決システム 法人全体の苦情解決システムの一環として、事業所ごとに苦情受付担当者・苦情解決責任者を配置するとともに、引き続き 2 名の第三者委員を配置し、適宜巡回相談を行いました。

職員研修体制 法人全体の職員研修として、7月7日に人権研修を実施しました。また、虐待防止研修をアーカイブ配信により実施しました。他、採用異動時研修、階層別研修（一般職員スキルアップ、主任、課長、所長）、OJTリーダー研修などに取り組みました。また、わかりたすくセミナーをキャリアパス指定研修とし、法人全体研修として取り組みました。グループホーム世話人については、事業所ごとに内部研修という形で随時実施しました。

第60回近畿知的障がい者福祉大会 9月26日（日）東大阪市文化創造館にて開催しました。現地参加とWEB配信のハイブリッド様式で、午後からの開催としました。

事業

生活支援部門

- 生活介護事業（ゲーテン）定員 40 名
- 生活介護事業（中） 定員 16 名
- 生活介護事業（ねぎぼうず） 定員 20 名
- 共同生活援助事業（H 中央、H あまみ、H い～な、H みのお、H さくら、H なでしこ、H しらさぎ）
- グループホームの支援の質の向上
- 居宅介護事業（H しらさぎ、中央、い～な）
- 移動支援事業（H しらさぎ、中央、い～な）
- 居宅介護支援事業（い～な）
- 短期入所事業（H みのお、さくら、H なでしこ、H しらさぎ）
- 日中一時支援事業（地域生活支援事業／中、あまみ、い～な、さくら）
- 知的障がい者相談支援事業（松原市委託事業）（あまみ）
- 一般相談支援事業（中央、あまみ、い～な分室、さくら）
- 特定相談支援事業（中央、あまみ、い～な分室、さくら）
- 障害児相談支援事業（中央、あまみ、い～な分室、さくら）
- 保育所等訪問支援事業（中央）
- 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業（地域生活支援事業／大阪府委託事業）
- 障害児早期療育事業（ポニー教室）（島本町委託事業）
- 自主製品の WEB 通販の開始（中）

就労支援部門

- 就労支援統括センターの運営（みいーん）
- 就労移行支援事業（さくら） 定員 22 名
- 就労移行支援事業（しらさぎ）定員 12 名
- 自立訓練（生活訓練）事業（さくら）定員男女 18 名
- 自立訓練（生活訓練）事業（しらさぎ）定員男女 14 名

- 就労継続支援 A 型事業(さくら・スワンカフェ & ベーカリー大東店)定員 10 名
- 就労継続支援 A 型事業におけるベジハグバーガーの展開 (さくら)
- 就労継続支援 B 型事業 (中) 定員 24 名
- 就労継続支援 B 型事業 (しらさぎ) 定員 14 名
- 就労継続支援 B 型事業(あまみ・ピカ☆イチ)定員 20 名
- 就労継続支援 B 型事業 (さくら) 定員 10 名
- 就労定着支援事業 (さくら、あまみ、しらさぎ)
- 地域活動支援センター事業 (しらさぎ・ネスト)
- 知的障害者雇用清掃事業(大阪府 IT ステーション、障害者社会参加促進センター等) (みいーん)
- エル・チャレンジに係る清掃事業 (大阪府・大阪市委託事業) (みいーん)
- 訪問型職場適応援助者による支援事業 (ジョブコーチ) (みいーん)
- 障害者就業・生活支援センター事業 (国・大阪府委託事業) (みいーん)
- 地域就労支援 (コーディネーター活動推進) 事業 (大東市委託事業) (みいーん)
- 職場定着支援事業 (大東市委託事業) (みいーん)
- 就労支援啓発セミナーの開催 (みいーん)

人材支援部門

- 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業 (大阪府委託事業)
- 本人活動支援センターの運営 (全育連)
- キャリアパス研修
- エンパワメント講座
- 新成人と還暦を祝うメッセージカードの送付
- 社内誌「つなぐちゃんベクトル」の毎月発行
- 支援専門職向けの政策ゼミナールの開催
- 人材確保策の強化 (法人説明会の実施と効果的媒体の利用)
- わかりやすい版「新型コロナウイルスにかからないようにするために」「特別定額給付金 ご案内」の啓発、配布

地域支援部門

- 情報紙「太陽の子」の毎月発行 4,000 部 印刷
- 本人情報紙「青空新聞」の年間 2 回発行 4,000 部 印刷 (太陽の子の差込みにて発行)
- 情報誌「知の知のヘッド」の随時発行
- ホームページの運営
- たまにブログ、しらさぎブログの提供
- 合理的配慮ひろめ隊フェイスブックの提供
- つな good ボウリング大会
- ボランティアの募集
- 知的障害に配慮した書籍や冊子の発行・あっせん・販売
- 情報・交流誌「手をつなぐ」等の購読販売

- 社会政策研究所の運営
- 生活支援機器等の展示・あっせん
- 市町村審査会等への人材派遣
- 自立支援協議会等への人材派遣
- P&A 大阪への参画
- 本人交流の場としてサロンの開設・実施（毎月2回）
- スポーツや文化事業への招待
- 企業等の社会貢献活動のコーディネート
- 図書館利用サポーター養成研修への協力

法人・団体支援部門

- 大阪知的障がい者スポーツ協会への参画
- 特定非営利活動法人堺市相談支援ネットへの参画
- 大阪知的障害者雇用促進建物サービス管理事業協同組合への参画
- 一般社団法人エル・チャレンジ等への参画
- 講座や研修会への各種講師派遣
- 審議会や検討会などへの委員派遣

（大阪ふれあいキャンペーン、大阪府障がい者自立支援協議会、大阪府工賃向上委員会、大阪府地域福祉推進審議会、大阪府福祉のまちづくり審議会、第三者評価決定委員会、大阪府障がい者施策推進協議会、大阪府障がい者差別解消協議会、大阪府障がい者給付不服審査会、大阪府運営適正化委員会、全国手をつなぐ育成会連合会、大阪府社会福祉協議会、大阪府地域福祉推進財団、大阪府障害者福祉事業団、大阪府家内労働センターなど）

- 政策フォーラム
- 政策の企画提言
- 旅行社による知的障害者向け旅行の開発支援

主な行事

第7回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会

⇒ 中止、一般社団法人設立記念式典を開催 12月20日

第60回近畿知的障がい者福祉大会 9月27日東大阪市

第25回近畿連リーダー養成研修会 ⇒ 中止

第7回事業所協議会全国研修大会 2月12日岩手県

第39回スポーツフェスタ 2021 大阪 10月16日17日ほか

第21回全国障害者スポーツ大会 ⇒ 中止

権利擁護セミナー 2月3日

全育連総会 6月30日

全国代表者事務局長会議 3月9日

育成会フォーラム 3月～4月 オンラインによるリモート開催
 令和3年新年懇親会 1月11日 弁当食による黙食と映画鑑賞
 手をつな good ボウリング大会 6月27日
 手をつな good ポッチャ大会 10月31日
 第12回社会政策研究所研究発表会 ⇒ 中止
 全育連役員会 4月30日、6月15日、11月29日、3月30日
 近畿連育成会役員会 4月5日、6月7日、8月2日、10月4日、12月6日、2月7日
 エル・チャレンジ総会 5月7日
 大阪障害フォーラム(ODF)総会 6月26日
 障害者週間大阪行事实行委員会 8月23日
 障害者週間シンポジウム 12月8日
 大阪ふれあいキャンペーン実行委員会 8月24日
 大阪府社会福祉大会 ⇒ 中止

育成会活動

- 育成会活動本部会議 毎月第2火曜日 計12回開催
- 支部代表者連絡会（わかりたすくセミナー） 毎月第3火曜日 計10回開催
- 部会活動（わかりたすくセミナー/年25回/延参加者313名⇒ただしWEB開催の参加人数は反映されていません）
 - 生活支援（年6回/延参加者103名）
 - 就労支援（年5回/延参加者16名）
 - 権利擁護（年3回/延参加者11名）
 - 社会参加（年5回/52名）
 - 活性化（年6回/131名）
- ほか 支部における研修会等の開催
- 要望活動
 - 大阪府への要望／市町村への要望支援
- 大阪府行政への審議検討参画
 - 大阪府障がい者自立支援協議会、大阪府工賃向上委員会、大阪府地域福祉推進審議会、大阪府福祉のまちづくり審議会、大阪府障がい者施策推進協議会、大阪府障がい者差別解消協議会、大阪府障がい者給付不服審査会、大阪府運営適正化委員会等
- 大阪府地域生活支援事業の受託
 - 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業
- 更生相談（権利擁護相談）
- 会員交流研鑽行事
 - 第62回大阪大会（第60回近畿大会併催／東大阪市文化創造館）9月27日
 - 交流運動会 ⇒ 中止

手をつな good ボウリング大会（八戸ノ里スペース hit：参加者 25 名） 6 月 27 日

手をつな good ボッチャ大会 10 月 31 日

政策フォーラムの実施 ⇒ 中止

政策ゼミナールの実施（年 5 回）

■他の障害者団体との交流連携

ODF（大阪障害フォーラム）への参画

■全国手をつなぐ育成会連合会への参加

国家要望／国等の審議会や検討会への参画／市町村育成会の活性化

■本人活動支援

全国大会本人大会への支援 ⇒ 中止

本人活動支援センターの運営

わかりやすい版パンフレットの作成と配布

IPTV や LL ブックなどへの協力

■要望活動

大阪府への要望／市町村への要望支援／全育連を通じての国家要望

地域貢献活動

■権利擁護相談

■スポーツ・文化イベントの実施

手をつな good ボウリング／手をつな good ボッチャ／スポーツや文化各種招待行事
のあっせん

■本人活動支援（本人部会：大阪ともだちの会）

- 大阪ともだちの会の支援 （年 7 回：延参加 124 名）
- 青空新聞の編集・企画と発行（年 2 回発行：1 回につき 4,000 部）
- レクリエーション活動
- 交流運動会 ⇒ 中止
- 勉強会

■研修会への講師派遣

■市町村審査会等への委員の派遣

政策提言活動

■社会政策研究所 別記

■大阪府行政への審議検討参画

大阪府障がい者施策推進協議会

意思疎通支援部会

障がい者文化芸術部会

大阪府障がい者差別解消協議会

坂本理事長

小尾常務理事

坂本理事長

坂本理事長

大阪府障がい者自立支援協議会	小尾常務理事
地域支援推進部会	小尾常務理事
基盤整備促進ワキング	谷川事務局長
工賃向上委員会	北口理事
虐待防止推進部会	東野理事
大阪府地域福祉推進審議会	小尾常務理事
大阪府福祉のまちづくり審議会	小尾常務理事
計画評価検討部会	小尾常務理事
大阪府障がい者給付不服審査会	小尾常務理事
大阪府運営適正化委員会	谷川事務局長
ふれあいキャンペーン実行委員会	小尾常務理事
大阪府高齢者障がい者住宅計画等審議会	谷川事務局長

新型コロナウイルス感染症対応

■新型コロナウイルス対策法人本部会議

令和3年4月19日より、全7回開催

検討内容

⇒法人対策指針、事業の休止判断、緊急連絡体制、物資の確保、新しい生活様式、新しい支援様式、感染者発生時対応シミュレーション、在宅支援、労務管理（自家用車通勤、自主隔離宿所設定、コロナ特別休暇等取扱い、ワクチン接種特別休暇取扱い、職員利用者出勤ガイドライン、特別手当、陽性者支援手当）

■新型コロナウイルス法人対策指針の策定

令和3年4月19日より、全8回改訂

策定内容

⇒①症状のある者、感染が疑われる者、感染者への対応手順

②法人内事業所休業等

③要員配置と優先継続業務

④感染者等対応居住エリアの確保

⑤法人対策本部体制

⑥職員申し合わせ事項

⑦事業所申し合わせ事項

事業運営について、環境への配慮、事務に関すること

⑧感染者発生時留意事項

⑨ワクチン接種について

■新型コロナウイルス感染者対応経過

法人事業感染者発生状況

令和2年度⇒利用者8、職員4

令和3年度⇒利用者 23、職員 24 計 利用者 31 名、職員 28 名

令和4年1月より全国的に感染が広がったオミクロン株については、当法人でも感染者が増加し、支援センターい～な、およびホームズしらさぎにおいて、5名以上の感染者が同時期に発生するクラスター認定がなされました。オミクロン株による感染者はおおむね軽症であった。入院が叶わず、グループホームにおいての自宅療養を余儀なくされ、ゾーニングを行った上での陽性者支援に取り組みました。

■関連助成金など

障がい福祉サービス事業所・施設における感染防止対策支援事業	132,000 円
新型コロナウイルス感染症に係る障がい福祉サービス等事業者に対するサービス継続支援事業補助金（大阪府）	2,534,000 円
両立支援等助成金新型コロナウイルス感染症小学校等休業対応	400,027 円
新型コロナウイルス感染症にかかる緊急見舞金（全社協）	405,000 円
障害福祉サービス等事業者に対するサービス継続支援事業補助金（堺市）	322,000 円
障害福祉サービス等事業者に対するサービス継続支援事業補助金（大阪市）	41,000 円
小学校休業対応助成金	801,187 円

合計 4,635,214 円

研究所

社会政策研究所

知的障害を主軸に社会政策全般についての調査研究等を行い、その知見を広く社会に提供することで、だれもが住みよい社会づくりの一助に帰することを目的として、また、これとあわせて、組織が成立して 50 周年を迎えた当法人の記念事業として、社会的貢献の社会政策研究所を運営しています。

具体的には、次の 5 つの機能を順次整備しています。

○相談機能（コンサルテーション consultation）

相談室を設け、社会福祉士や相談支援専門員等を登録し、各種相談に対応する。

○交流機能（コミュニケーション communication）

会員や関係者の自由な意見表明、情報交換の場として以下のプログラムを提供する。

政策フォーラム、政策ゼミナール、大阪相談支援ネットワーク会議、研究発表会等

○協働機能（コラボレーション collaboration）

大阪育成会の会員や各組織、活動、事業などのフィールドを介して、様々な研究会や研究者と共同し、支援策や支援プログラム等を開発・提供する。

ケアマネジメント研究、性教育研究、社会関係障害研究、権利擁護研究など

○調整機能（コーディネーション coordination）

支部をはじめ各地で開催される研修会や学習会・講座等に、講師を紹介する

○提言機能（プロポーザル proposal）

行政機関等に対し各種施策提言や政策提案などを行う

なお、研究所運営にあたっては、客員研究員制度を効率的に活用することとします。

所在地 大阪市東成区中道 1-3-59 大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター 3F

職員 所長 1 名（常務理事兼務） 客員研究員 8 名（令和 4 年 3 月 31 日現在）

事業 令和 3 年度の事業は以下のとおりです。

ただし、新型コロナウイルス感染症のために大幅に事業を縮小せざるをえませんでした。

（社福）大阪手をつなぐ育成会の社内誌「つなぐちゃんベクトル」の編集発行

毎月定期号を通算 12 号（148～159 号）を発行

通算 150 号となる 6 月号から紙面をリニューアルし毎月発行しています

（社福）大阪手をつなぐ育成会の情報誌「知の知のヘッド」 ほぼ毎日発行

令和 3 年 6 月 1 日より「大阪 O 6 ヘッド」に集約をして週 1 回で発行しています

す。

わかりたすく工房 年間を通じてわかりたすくセミナー等への情報提供
研修会への講師派遣

R4.2 神戸市歯科医師会 R4.3 生駒市図書館 R3.12(株)アステム (2回)

政策フォーラムの開催 6月29日 SDG'sと障害者団体・福祉団体
講師は牧文彦さん(特定非営利活動法人 Deep People 理事長)

政策ゼミナール 「手をつなぐ」を素材に情報交換

5回開催 予定していた7回は感染症の影響等で中止しました

4月27日	スタートを応援(中止)	5月25日	表現に触れる機会(中止)
6月22日	報酬改定	7月27日	コロナ禍での本人活動
8月24日	ヤングケアラー(中止)	9月28日	災害リスク
11月2日	成年後見制度	11月30日	性
12月21日	放課後等デイ(中止)	1月25日	高齢化(中止)
2月22日	パートナー間の関係(中止)	3月22日	一般社団記念式典(中止)

社会政策研究所研究発表会(第12回) 令和2年度に続き3年度も中止
職員研修の機会として4月4日に2コマの講演を行いました

IPTVアクセシビリティコンソーシアム

令和3年7月16日 TTCWEB セミナーへの参画

「コロナ禍での知的障害者への情報提供」

相談

大阪育成会相談センター

概要

令和3年からは、大阪育成会相談センターとして、ホームズあまみ内に拠点を置き、中央分室（中央支援センター 支援センター中内）、さくら分室（支援センターさくら 就労支援統括センターみいーん内）、みのお分室（支援センターい〜な）の3分室を統括した。当初から経営的に厳しい運営をどう改善していくか、点在する分室をどう一体化していくかの課題があった。コロナ禍においては、Webでの会議などによって連絡を密にすることに務めた。しかし、拠点と3分室の4カ所を一体的に運営するには、地域の特性等もあり困難な部分が多かった。大阪育成会相談センターの課題としては、①法人内における相談支援全体の業務実態（ケース対応を含む）を把握すること。②センター運営に必要な業務や経費、人員の洗い出しを行う。③各エリアとの連携の方法（情報伝達や決裁などの電子化を含む）を模索するであった。①、③については、実行できたが②については、十分な洗い出しまでには至らなかった。

なお、大阪育成会相談センターでは、法人理念、行動指針、基本姿勢を重視して地域に潜在している福祉ニーズに対し、丁寧かつ必要な支援を市町村、多職種と連携を図り迅速に展開することを目指し実施した。また一方、センター運営として支援業務において算定可能な報酬は最大限取得し、経費削減の努力など収支バランスも考慮しながら適正なセンター業務を遂行する環境を目指し、赤字削減を図ったが十分な効果は認めなかった。

試行錯誤を繰り返しながら1年間大阪育成会相談センターを運営する中で、全体をより縮小したうえで、それぞれのセンターごとに相談支援を運営し、とりまとめとして中央分室を中央支援センターとして機能させる方向で次年度に向け集約していった。また、い〜なケアマネ分室（居宅介護支援事業）を9月末に廃止した。

I 業務の整理

1 相談支援事業のあり方を（再）検討

相談支援事業全体として数年前から「整理と縮小」に向けて取り組んできた。それぞれのセンターのケース数を減らすことなどに務めた。

大きな整理としては、支援センターあまみの松原市委託相談支援事業の受託停止と指定相談支援事業の廃止に向けてのケース縮小を進めた。委託相談支援事業については松原市とも協議の結果、令和4年4月からはケースを当座のあいだ市が直接引継ぎ、その後は受託先に引き継がれることとなった。また、指定特定・一般相談支援事業については、廃止する方向で、今年度100件以上のケースを地域の事業所に引き継いだり、セルフプランに移すなど、整理・縮小を進めてきた。しかし令和4年2月の新型コロナウイルス（オミク

ロン株）蔓延による影響で、引き継ぎ業務が滞り、また引継ぎを予定していた事業所の都合で急に受け入れができないと言われることなども続き、年度内での全ケースの移行が困難となった。そのため計画相談支援（指定特定・指定障害児）の指定に関しては令和４年度も引き続き残すこととし、ケース引継ぎが終了次第、概ね７月を目途に、指定を取り消すこととする。ただし指定一般相談支援事業については、すべてのケースが他事業所への移行ができたため、令和４年３月末付で指定を取り消すこととなった。

また、次年度に向け下記の整理再編を行う方針とした。

（中央）

- ・相談支援事業の請求事務や法人の運動（活動）にあたる部分を大きく担っているため事務局の分室として編成しなおす。

（さくら）

- ・相談員の兼務発令など、他事業との協働。拠点となるセンターの従事者とも連携しながら相談支援を展開していくことにより、次代の相談員育成につなげる。

（い～な）

- ・相談員の兼務発令など、他事業との協働。箕面市エリアの相談支援事業を展開しつつホームの高齢利用者については引き続き介護保険サービスとの連携やケース引継ぎをしていくことで、２割程度のケース縮小に努力していく。

2 情報共有及び様式の一体化

- ・請求事務について、相談センターとみのお・さくら分室から中央分室を訪問して体験してもらった。
- ・運営規定や契約書・重要事項説明書等の様式が事業所ごとで若干違うので統一する。エリアの独自ルールもあるため、そのあたりは各指定権者と調整した。
- ・令和３年１２月１３日、支援センターさくらに大東市から実地指導が入り、何点か指摘を受けた。そのあたりの指摘も踏まえ、相談支援事業所で課題を共有し、対応していった。

Ⅱ 相談支援専門員の質の向上（人材育成）

3 相談員の知識向上

（１） 相談支援専門員のスキルアップ研修

- ① 今年度１回目の相談支援従事者現任研修に３名受講。２回目に１名申し込むも落選。
- ② 各種体制加算に係る講座の受講（医療ケア児支援、精神障害者支援、強度行動障害者支援）。さくら⇒精神障害者支援加算導入（７月より）強度行動障害者支援加算導入（令和４年１月より） あまみ⇒医療ケア児支援体制加算取得のため、研修を受講した。
- ③ 主任相談支援専門員研修の受講…市町村からの推薦がなかったため参加せず。

(2) キャリアパス研修の受講

わかりやすくセミナー等への積極的な参加。参加できなくても後日アーカイブ研修として受講するなど、知識向上に努めた。また、各所属エリアの自立支援協議会主催研修等への参加を促した。

4 相談員の技術向上

相談支援担当者会議の活用

- ① 令和3年度新しく相談事業に携わることになった職員への人材育成研修を企画し、年度内に各拠点を回ってもらうなど、独自研修を開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルス蔓延の影響で来年度に延期となった。
- ② 9月から事例検討を導入した。相談支援専門員間で共有したいケースを輪番で1つ出して検討会を開催した。事例提供者に的確にフィードバックできるように様式や課題抽出方法を検討した。

5 横断的な協働

相談支援主任ミーティングを中心に、法人内での相談支援事業の在り方、生き残り方を話し合い、来年度の展開に向け理事長ヒアリングの資料作成を行った。

6 事業実績について

【大阪育成会相談センター】

(人)

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	132	132	131	131	131	129	129	125	120	110	98	98
(内障がい児数)	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
計画作成数(者)	31	6	7	8	8	10	5	6	7	7	7	2
モニタリング数(者)	42	31	50	39	29	48	34	23	38	26	14	17
計画作成数(児)	6	0	4	0	1	0	1	2	1	1	1	1
モニタリング数(児)	2	3	4	2	7	3	1	6	3	2	2	4
地域定着支援 態勢確保(契約数)	24	24	24	24	23	22	22	20	16	14	10	8
緊急支援(回)	9	16	13	13	17	12	14	8	4	10	7	4
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
委託相談	0	0	0	0	0	1	2	3	3	2	3	5
区分認定調査(件数)	2	5	1	1	0	1	6	4	14	10	8	13

【中央分室】

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	79	79	79	79	80	76	76	75	74	71	71	71
（内障がい児数）	32	32	33	33	35	32	32	32	32	30	30	28
計画作成数（者）	9	8	4	6	5	6	4	4	4	5	4	2
モニタリング数（者）	15	12	15	16	13	14	16	13	17	12	12	10
計画作成数（児）	6	0	0	1	8	2	2	7	5	2	1	6
モニタリング数（児）	11	11	9	6	14	8	6	6	8	10	3	6
地域定着支援 態勢確保（契約数）	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	9	10
緊急支援（回）	12	6	10	6	10	7	11	4	5	7	7	4
地域移行	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0
基本相談	3	2	0	1	1	1	1	1	2	2	1	2

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ポニーの学校(実人員)		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

- ・ 緊急事態宣言中及びまん延防止措置中も島本町の了解を得て個別対応で開催し、予定通り前期 20 回後期 20 回計 40 回の療育を行った。
- ・ インターバル中の保育所等訪問は、感染防止の観点から自粛した。
- ・ スタッフ 1 名がコロナウィルス感染者の濃厚接触者となり、2 回休業したため、その分減額して請求を行った。（契約額 1,525,900 円 請求額 1,505,000 円）

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
保育所等訪問支援	0	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	1

- ・ 許可あった公立中学 1 校の訪問以外は、緊急事態宣言中及びまん延防止措置中は訪問、面談共に自粛した。

【さくら分室】

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	59	59	59	58	58	57	60	60	60	60	60	60
（内障がい児数）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画案作成件数（者）	3	8	9	4	6	8	10	8	7	4	3	6
計画作成数（者）	4	3	8	9	3	6	9	9	7	6	4	4
モニタリング数（者）	12	13	16	11	15	15	16	14	17	15	13	18

計画案作成件数（児）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画作成数（児）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モニタリング数（児）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域定着支援 態勢確保（契約数）	5	5	5	5	5	6	7	7	7	7	8	8
緊急支援（回）	12	16	3	3	8	1	1	2	0	0	0	1
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【みのお分室】

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	95	96	94	94	97	98	98	96	94	93	93	93
（内障がい児数）	15	15	15	15	15	16	16	16	15	15	15	15
計画作成数（者）	11	4	5	9	10	7	6	10	1	7	4	2
モニタリング数（者）	31	21	33	37	23	28	30	17	29	24	19	23
計画作成数（児）	1	0	2	0	0	1	3	1	2	1	1	2
モニタリング数（児）	2	8	7	2	8	7	2	8	8	3	8	9
地域定着支援 態勢確保（契約数）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
緊急支援（回）	1	4	2	4	4	1	4	1	0	6	9	2
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本相談	2	3	3	3	1	2	2	2	4	4	4	4

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
居宅介護支援（件数）	13	13	13	10	6	3						

支援センター中・ホームズ中央・ヘルパーステーションなか

I 事業概要

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止として、大阪市からの予防策をもとに、作業室のレイアウトの見直しや換気の徹底、利用者には、マスク着用支援を行った。また、利用者が楽しみにしている行事については、利用者の安全を第一に、大阪府の感染状況を確認しながら、感染対策を行い、職員間で工夫をし施設外プログラムを実施した。

家族から新型コロナワクチン接種支援の依頼があり、区医師会・医療機関等の協力を得て、センター内・外で1回目から3回目までのワクチン接種を行った。延べ170名のワクチン接種支援を行い、結果として、当センターで若干名の陽性が発生するが集団感染に至らず、事業を休止することはなかった。2月に感染者が増加し、他事業所でクラスターが発生する中、活動場をなくした障害者の受け皿となり、当センターで受け入れた。

就労継続支援B型事業については、目的を就労から、働く・楽しむ・学ぶに変更した。創作活動を取り入れ、これまで気付かなかった利用者の新たな側面を確認し、支援に活かすことができた。生活介護事業については、利用者の安全な活動を考えた上で、個を意識した取り組みを実施し、作業、余暇、行事などなるべく選択できる機会を設け、利用者の満足につなげた。

少しでも魅力のある事業所を目指す目的で、昨年度に引き続き、利用者・ご家族に向け満足度調査を実施した。アンケートの結果については、職員間で共有し次年度のプログラムの見直しや支援方法の改善につなげた。

II 事業内容

支援センター中

就労継続支援（B型）事業 定員 24 名

生活介護事業 定員 16 名

日中一時支援事業 （大阪市・八尾市）

ホームズ中央

共同生活援助事業 定員 22 名

ヘルパーステーションなか

居宅介護事業、移動支援事業

III 課題への取り組み（令和3年度重点項目の取り組み）

就労継続支援B型 （定員24名）

利用者の意思及び人格を尊重し、就労に必要な知識、能力が向上するための個別支援、

生産活動（委託加工、自主製品作成、販売訓練）に加え、利用者から意見を取り入れ、余暇活動（創作活動）、体力維持プログラム（100歳体操等）を固定化して提供した。

さをり工房「なかなか」については、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大によりバザー販売が減少する中、10月より東成区役所内で月に2回程度地域にむけて販売する機会を設け、少しずつであるが認知されてきている。新開発商品として、動物シリーズの販売を開始、癒されると好評であることから売り上げが上がった。それにより平均工賃については、昨年度より増額をして利用者に支給することができた。

11月から12月にかけてグループに分かれて社会見学を実施し、学ぶ機会を提供した。

生活介護（定員 16 名）

昨年度に引き続き、感染防止を行いながら生産活動（委託加工）のほか、事業所内で余暇活動プログラムに取り組んだ。また、リズム体操、エイサー（沖縄諸島全域に伝わる盆踊り）については、広い場所で体を動かしてもらうことを意識し、場所を変えて東成区民センターを利用し、講師を招いて取り組む機会を提供した。

利用者が楽しみにしている行事については、新型コロナウイルス感染拡大により、恒例行事を中止及び変更し、感染状況をみながら、招待を受けた行事（日産労連 ミュージカル）や大阪城公園での歩行訓練などに参加した。外に出る行事は、利用者にとって気分転換となり、心身の安定につながった。

余暇活動の一環である季節に応じた行事については感染防止策を行いながら、職員間で知恵を出し合い、通年どおり夏祭り、ハロウィーン、忘年会等を実施した。それ以外にもマクドナルドをテイクアウトした昼食会を開催し、利用者に満足してもらえるような時間を提供した。

Ⅳ 年間行事、日課など

1. 日課

午 前		午 後	
	登 所	1 : 0 0	作業・活動再開
9 : 3 0	朝礼・ラジオ体操	2 : 0 0	途中休憩（コーヒータム）
	終了後 作業、活動開始	3 : 2 0	作業、活動終了 清掃・終礼
1 2 : 3 0	昼食・休憩	4 : 0 0	降所

2. 年間行事

日時	行事名	場所	事業名
令和3年7月9日	避難訓練（1回目）	支援センター中	就B・生活

令和3年8月30日	夏祭り・カキ氷大会	支援センター中	生活・就B
令和3年10月29日	ハロウィーンパーティー	支援センター中	生活
令和3年10月20日 から31日	歩行訓練	大阪城公園	生活
令和3年11月～12月	学習会	カップヌードルミュージアム 津波、高潮ステーション	就B
令和3年11月29日	日産労連クリスマスチャ リティー	国際障害者交流センター「ビ ック・アイ」	就B・生活
令和3年12月18日	クリスマスパーティー	支援センター中	生活・就B
令和4年1月4日	新年会・初詣	支援センター中・三光神社	生活・就B
令和4年1月14日	マクドナルドテイクアウ ト	支援センター中	生活
令和4年2月22日	避難訓練（2回目）	支援センター中	就B・生活
令和4年3月19日	学習会（マスク会食）	支援センター中・天山閣	生活介護
令和4年3月29日	ごくろうさん会	支援センター中	就B
令和3年10月から 令和4年1月	健康診断	大阪市リハビリテーションセンター他	就B・生活

その他

家族会	毎月1回（新型コロナウイルス感染防止の為、7月・10月・11月・12月のみ開催）
介護等体験実習	令和3年11月2名・令和4年3月2名受け入れ
土曜開所	概ね月1回実施
選択弁当	月1回実施

さをり販売	12月1日大阪府立図書館・東成区民センター（10月より月2回） ・支部連販売他
-------	--

V 事業概況

1 利用者の状況

令和4年3月31日現在(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	44	43	43	43	43	43	42	42	42	42	42	42
当月入所者	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
当月退所者	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
開所日数	22	19	22	21	21	21	22	21	21	20	19	23
就労継続B型	男性	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12
	女性	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	計	19	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18
	延利用者	363	316	395	367	348	349	372	343	354	317	292
	利用率	68%	69%	74%	72%	69%	69%	70%	68%	70%	66%	67%
生活介護	男性	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17
	女性	7	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7
	計	25	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
	延利用者	417	340	418	388	380	375	409	388	386	358	335
	利用率	118	111	118	115	113	111	116	115	114	111	110
日中一時	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2 その他利用者情報

(障害支援区分と援護市の状況)

令和4年3月31日現在(人)

事業名		就労継続B型 現員18名(定員24名)	生活介護 現員24名(定員16名)
援 障 区 害 分 支	区分6	0	8
	区分5	3	6
	区分4	8	9

	区分 3	4	1
	区分 2	2	0
	区分 1	0	0
	区分なし	1	0
援護市別利用者数		大阪市 13 名 八尾市 4 名 東大阪市 1 名	大阪市 20 名 八尾市 4 名

3 年齢の状況 (人)

事業名		就労継続B型	生活介護
19 歳以下	男		
	女		
20 歳～29 歳	男	2	6
	女		
30 歳～39 歳	男	3	2
	女		
40 歳～49 歳	男	3	4
	女	1	3
50 歳～59 歳	男	2	3
	女	2	3
60 歳～69 歳	男	1	1
	女	2	
70 歳以上	男	1	1
	女	1	1
平均	男	44.5 歳	40.3 歳
	女	58.2 歳	52.7 歳

4 工賃支給実績（就労継続支援B型）

	工賃支払い対象者数		支払工賃総額	
4 月	19	人	132,450	円
5 月	19	人	111,550	円
6 月	19	人	98,850	円
7 月	19	人	127,800	円

8月	19	人	115,000	円
9月	19	人	101,800	円
10月	19	人	281,550	円
11月	18	人	116,650	円
12月	18	人	102,450	円
1月	18	人	108,350	円
2月	18	人	93,350	円
3月	18	人	421,700	円
合計	223	人	1,811,500	円

月平均工賃	
8123.3	円

ホームズ中央

I 事業概要

ホームズ中央は、今年度も地域で自分らしい生活を送れることを希望している19名の利用者の支援、援助を行なった。また、利用者・家族の生活ステージを把握して地域生活の展開とホーム設置の検討を行なった。

新型コロナウイルス感染拡大により、新しい生活様式に習いマスク着用・手洗いうがい・換気の声かけ支援・援助を行った。感染防止策として、国・府の指導に基づいた対策を行った上、健康観察の徹底、居室での食事の提供を実施し、なるべく集まらない取り組みに切り替えた。大阪府下の感染状況に合わせて、利用者にわかるようにお知らせを配布し、注意喚起を行い感染防止に努めた。新型コロナウイルスワクチン接種を希望する利用者には、接種支援を行った結果、感染する利用者はいなかった。

また、利用者が楽しみにしている誕生日会は、感染状況を確認しながら、感染対策ができていない飲食店の利用及びテイクアウト（宅配）を活用して質を下げないような工夫をし開催した。

Ⅱ 課題への取り組み（令和3年度重点項目の取り組み）

共同生活援助

利用者の身体及び精神の状況に応じた支援計画を基本にすえ、主体的で豊かな生活を送ることができるように取り組んだ。具体的には入浴、排せつ及び食事等の援助、その他の日常生活上の相談を行った。また、訪問看護ステーションや居宅介護事業所との連携を強化し、利用者の健康面や通院等の支援についても充実を図った。

介護保険適用に該当する利用者については、障害福祉サービスだけでなく、介護保険サービスの説明を行い、利用者を選択してもらう取り組みを行った。また、少しでも自分でできることを維持してもらう目的として、介護保険による住宅改修（入浴用手すり、介護用ベッド）の説明、申請の手伝いを行い、より住み心地の良い住環境を提供した。

高齢利用者が当ホームでの生活が難しくなり、後見人及び介護支援専門員と相談し、次の生活場面に引き継いだ。また、3月末にかみきたホームの1住居を廃止した。

1 利用者の状況（毎月末日）定員 22 名

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		19	19	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19
当月入所者		0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
当月退所者		0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
共同生活援助	男性	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14
	女性	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	計	19	19	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19
	のべ利用者数	523	516	520	527	542	506	549	535	533	517	490	546
	利用率	79%	75%	78%	76%	79%	76%	83%	80%	78%	75%	79%	80%

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2 その他利用者情報

（障害支援区分と援護市の状況）

令和4年3月31日現在（人）

年齢	性別	共同生活援助
20 歳～29 歳	男	1
	女	0
30 歳～39 歳	男	0
	女	1
40 歳～49 歳	男	7
	女	1
50 歳～59 歳	男	5

	女	1
60 歳～69 歳	男	0
	女	1
70 歳以上	男	1
	女	1
平均	男	48.8 歳
	女	53.0 歳

(障害支援区分と援護市の状況)

(人)

事業名		共同生活援助
障害支援区分	区分 6	0
	区分 5	4
	区分 4	8
	区分 3	5
	区分 2	2
	区分 1	0
	平均区分	3.7
援護市別利用者数		大阪市 8 名 八尾市 8 名 門真市 1 名 東大阪市 1 名 高槻市 1 名

ヘルパーステーションなか

I 事業概要

ヘルパーステーションなかは、一人では外出が難しい障害者が、社会生活の上で必要不可欠な外出や余暇活動、社会参加のための外出をする際に、ヘルパーを派遣し外出時に必要となる移動の介助及び交通機関の利用支援、助言を行った。また、一人で医療機関に受診できない障害者に対し、ヘルパーを派遣し病院に付き添い、通院時に必要となる移動の介助や医師からの指示や内容を利用者にわかりやすく説明し、医師と利用者の橋渡しを行った。

Ⅱ 移動支援実績（延べ件数）**（人）**

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
実人員	0	2	7	5	4	5	7	6	1	2	3	6	48
延べ支援件数	0	2	9	7	6	7	9	8	1	3	6	6	64

Ⅲ 居宅介護実績（延べ件数）**（人）**

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
実人員	10	11	11	7	8	8	9	9	7	12	12	9	113
延べ支援件数	14	17	16	14	13	17	14	17	15	17	17	17	188

Ⅳ 報告

移動支援については、新型コロナウイルス感染拡大防止により、緊急事態宣言中は、支援を中止した。また、ヘルパーには、定期的に感染予防策を伝え、利用者の安全に努めた。居宅介護については、定期通院など急を要さない通院については、医師と相談し期間を空けてもらう調整を行った。

支援センターあまみ・ホームズあまみ

I 事業内容

○就労支援

就労継続支援 B 型事業 (定員 20 名)

就労定着支援事業

日中一時支援事業

大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合 (エル・チャレンジ) 事業

松原市総合福祉会館清掃事業

訪問型職場適応援助者 (ジョブコーチ)

○生活支援

共同生活援助 (グループホーム) の運営 (定員 47 名)

夕食提供事業

○相談支援

大阪育成会相談センター (松原市委託相談・指定一般・指定特定・指定障害児)

○事務

総務・庶務・労務・会計

【概要】

支援センターあまみ・ホームズあまみは、拠点の垣根を超えた一体的な運営を基本とし、就労、生活、相談の三者それぞれの業務特性を活かしながら、あまみエリアでの機能連携を日常的に進めた。

経営面では、就労系事業で経営改善 2 か年計画を作成、収益の増、経費の削減に取り組んだ。コロナの影響で、開所日数、稼働率とも計画した数字には届かなかったが、新規利用希望者の受け入れがあり、昨年を上回る実績・成果を残すことができた。

生活支援では、11 か所のグループホーム利用者に対して、自分自身で選択、決定し、豊かな生活を実現するために支援を実施した。新型コロナの影響で世話人定例会や研修等、計画通りに進めることが困難な状況もあったが、世話人との個別のヒアリング (年 1 回) を実施し、利用者の視点に立った暮らしを見つめ直し、サービス管理責任者、バックアップ職員・世話人・生活支援員が協働して取り組む体制づくりを行った。また、拠点を中心に防災に取り組み、グループホームでの生活が安全で、安心なものとなるよう感染症及び自然災害に対応した BCP (事業継続計画) を作成中である。

相談支援は、法人全体の相談支援事業体制のスリム化に伴い、持続可能なセンター運営を行うため、各地域における現業務を見直し事業規模の適正化を目指した。松原市委託相談事業では、地域から受ける窓口相談 (基本相談) を重視し、利用者、そのご家族が希望

する生活により近い状況になるようマネジメントを行った。

Ⅱ 令和3年度重点課題

1 就労支援

- 就労系事業の経営改善
- 支援の質（利用者の満足度）

2 生活支援

- 世話人・生活支援員の確保
- 医療的ケアの充実と通院介護等の利用
- 成年後見制度の活用
- 感染症や災害等に備えた危機管理対策～事業継続計画（BCP）等

3 相談支援

- 大阪育成会相談センターの運営
- 相談支援専門員の専門性向上

4 事務

- 経理事務の改善と効率化

Ⅲ 課題への取り組み

1 支援センターあまみ・ピカイチ（就労支援）

【新型コロナウイルスの影響】

- ・今年度もコロナ禍に直面し、休日開所が計画通りとはいかなかった。感染対策をしながら開所日確保に努めた。
- ・4月12日～14日、ピカイチ職員が陽性となり、保健所対応のため休所した。続いて16日～19日、ホームズあまみ利用者から陽性者が発生。エリア全体で応援体制の必要が生じたことからピカイチを休所した。休所中は在宅支援を実施した。
- ・8月。ピカイチ職員が濃厚接触者に指定され自宅待機となる。事業所に影響はなく開所を継続した。
- ・2月。ピカイチ職員1名、利用者1名が陽性。職員1名、利用者2名が濃厚接触者。職員1名が保育所休業により出勤不能という状況が、短期間に一度に発生した。それぞれ関連性はなく、施設内感染ではなかった。同時に清掃現場スタッフの入院も重なり、職員不足の状況が2週間続いたものの、職員の多大な尽力により開所を継続できた。

【経営改善】

- ・経営改善2か年計画の1年目が終了。昨年度末をもって就労移行支援事業を廃止し、

4月より就労継続支援B型（定員20名）に事業再編した。赤字解消にはいたらなかったが、収益は増加し、次年度もさらに改善が見込めるまで状況になった。

- ・稼働率は目標年間平均110%のところ、101%という結果。年度内に新規利用者が2名、退所者が4名（就職2名、その他2名）あった。
- ・開所日は年間目標267日のところ、263日であった。新型コロナにより、4月と2月の休日開所を中止したため、計画日数に達しなかった。
- ・平均工賃月額11,929円。事業の再編、材料費の見直し、エルチャレンジ清掃訓練の活用により、昨年度比でおよそ3,500円のプラスとなった。これにより、次年度の基本報酬があがり、収益増が見通せる。
- ・就職者は今年度2名（7月1名、2月1名）を送り出した。7月就職の1名は諸事情により6か月定着せず離職してしまった。ジョブコーチ1名を登録し、8月より活動を開始している。
- ・賃貸借契約について、賃料の交渉を行い、次年度も引き続き減額できることとなった。また、ミーティングや個別プログラム用に借りていた306号室に関しては、年度末で解約した。

【支援の質（満足度）】

- ・小集団プログラムにより個別のニーズに対応を図ってきた（漢字検定、グループワーク、パソコン教室、図工、その他）。また緊急事態宣言中であっても利用者の不安やストレス解消に努め、連休などで、出かける先もなく、様々な事情でうまく過ごせない利用者向けに、休日開所を実施した。
- ・今年度は、新型コロナに限らず利用者の健康問題が大きく取り上げられる1年でもあった。ガンの発見、糖尿病の悪化、急激な体重増加など。それぞれ個別の状況に寄り添い、家族、医療機関、生活支援機関等と連携し、家庭訪問、通院同行など事業所外のニーズにも可能な限り対応した。また、衣食住や金銭に関する課題に関しても、事業所内の支援にとらわれず、ニーズに応じた支援を展開した。
- ・地域の支援学校、相談支援事業所、自立訓練事業所と連携し、10名の実習を受け入れた。新規利用者は、4月から1名、12月から1名が利用開始した。さらに、次年度4月から3名（支援学校から1名、自立訓練から2名）が利用開始予定となっている。

2 ホームズあまみ（生活支援）

- ・共同生活援助は、年度当初47名の定員に対し46名の利用状況であった。年度途中で長期入院の男性1名が退居、女性1名が入居された。男性1名の空きがあり、見学等もあったが入居には繋がらなかった。
- ・あまみでは、24歳から72歳までの利用者が生活しており、平均年齢は男性が50歳、女性が42.8歳となっている。46名の利用者のうち半数以上が一般企業で働いており、就労系などの障害福祉サービス事業所に通所されている方は全体の40%である。

令和3年度は退職された方が1名、年度末時点でなお求職状態にある方が3名である。

【世話人・生活支援員の確保】

- ・人材確保は深刻でありインターネットやポスティングシステム活用した求人活動やシルバー人材センターとの連携により、世話人や夜間支援員は一定充足することはできた。（採用3名）ダブルワークの職員が多く、70歳以上の登録制世話人との新旧交代や夜間支援体制の充実強化が計画どおりには進まなかった。

【医療的ケアの充実と通院介護等の利用】

- ・年間の医療機関への通院総件数は497件であった。新型コロナの影響もあり昨年度と比べて通院件数が約30件多くなった。利用者単独で受診ができているのは3%で、通院等介助を利用している方も4%に過ぎない。全体の8%は支援センターの職員が協力し、85%はホームズの職員が通院同行を行った。利用者の加齢に伴う生活習慣病への対応や精神科医療機関との協力連携は年々重要性が増しており、受診調整や服薬確認、医療情報の支援者間の共有など課題も明らかになってきた。
- ・令和元年9月に訪問看護を全ホームに導入。以降各ホームに月2回看護師が訪問。ラインや電話にて24時間の連携体制を構築し情報共有を行っている。今年度はコロナ陽性者や濃厚接触者の個別対応の調整等も行った。

※通院支援状況（R3.4～R4.3）

（回）

月	ホームズ	ピカイチ	ガイド	単独
4月	18	3	1	3
5月	20	0	0	1
6月	32	1	2	5
7月	37	9	2	4
8月	23	10	3	3
9月	26	8	2	1
上半期（計）	156	31	10	17
平均	26	5.2	1.7	2.8
上半期総合計 / 月平均		214 / 35.6		
10月	24	8	2	3
11月	34	11	3	5
12月	25	8	2	4
1月	27	4	2	4
2月	33	6	2	2

3 月	31	4	3	3
下半期（計）	174	41	14	21
平均	29	6.8	2.3	3.5
下半期総合計 / 月平均		250 / 41.6		
年間総合計	330	72	24	38
平均	27.5	6	2	3.1
年間総合計 / 月平均		464 / 38.6		

【成年後見制度の活用】

- ・成年後見制度利用は、現在約4割で、令和3年度は新規の開始が2件あった。

【感染症や災害等に備えた危機管理対策～事業継続計画（BCP）等】

- ・感染症及び自然災害に対応したBCP（事業継続計画）を7月完成に向け作成段階である。

【ネットワークへの参加】

- ・連絡会等への参加は、新型コロナの影響により計画通りとはいかなかった。

Ⅳ その他プログラムや、事業の特筆すべき事項など

一体感のある運営のため、あまみ連絡会（月2回）、電子会議システムを活用した。

Ⅴ 年間行事、日課など

1 日課（支援センターあまみ・ピカイチ）

午 前		午 後	
9:00～9:30	出勤 着替え・準備	13:00～14:00	午後プログラム①
9:30～9:45	ラジオ体操 朝礼	14:00～14:15	休憩
9:45～10:45	午前プログラム①	14:15～15:15	午後プログラム②
10:45～11:00	休憩	15:15～15:30	片付け・終礼
11:00～12:00	午前プログラム②	15:30～16:00	清掃・退勤
12:00～13:00	昼食・休憩		

2 年間行事

月	年間行事
4月	3日(土) お花見ウォーキング 17日(土) 中止
5月	3日(月)、4日(火) 連休中、自宅で過ごすのが難しい方向けの居場所として開所。室内ゲームやカラオケ等。 22日(土) ペットボトルボウリング等
6月	12日(土) ボッチャ等室内ゲーム 26日(土) 漢字検定 27日(日) 手をつな good ボウリング大会
7月	10日(土) 室内ゲームとカラオケ 22日(土) フライングディスクとカラオケ
8月	14日(土) ピカイチ夏まつり ゲーム等 22日(日) エルチャレ甲子園 28日(土) アニメ鑑賞とカラオケ
9月	11日(土) 歯科医師による歯科検診と口腔衛生指導 23日(木) フライングディスクとカラオケ
10月	16日(土) スポーツフェスタ 31日(日) 手をつな good ボッチャ2021
11月	13日(土) まつばらマルシェ 23日(火) カラオケ、映画鑑賞
12月	11日(土) ボッチャ、カラオケ 26日(日) ピカイチクリスマス会
1月	8日(土) 新年会 29日(土) 漢字検定
2月	2月の休日開所は中止。
3月	5日(土) 映画鑑賞とカラオケ 19日(土) カラオケと歓送会

VI 事業概況

1 支援センターあまみピカイチ

①利用者の状況

【就労継続支援B型】

(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	31	31	30	29	29	28	28	28	28	29	28	28

当月入所者	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
当月退所者	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0
B型	男性	18	18	18	18	18	18	18	18	19	19	19
	女性	13	13	13	11	11	11	10	10	10	10	9
	計	31	31	31	29	29	29	28	28	29	29	28
	利用率	97	99	122	98	99	102	100	101	101	94	101

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

【就労定着支援】 (人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
就労定着	男性	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1
	実績	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1

【訪問型職場適応援助者（ジョブコーチ）】 (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
活動件数	-	-	-	-	5	6	0	0	0	0	12	9

②その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況） 2022年3月31日現在 (人)

事業名		就労継続B型	就労定着
障害支援区分	区分6		
	区分5	2	
	区分4	7	
	区分3	7	
	区分2	1	
	区分1		
	区分なし	11	1
援護市別利用者数		松原市 21 大阪市旭区 1 大阪市平野区 1 岸和田市 2	松原市 1

	富田林市 1 藤井寺市 2	
--	------------------	--

③年齢の状況

2022年3月31日現在 (人)

事業名		就労継続B型	就労定着
19歳以下	男	1	
	女		
20歳～29歳	男	5	1
	女	1	
30歳～39歳	男	1	
	女	2	
40歳～49歳	男	4	
	女	3	
50歳～59歳	男	6	
	女	3	
60歳～69歳	男	1	
	女		
70歳以上	男	1	
	女		
平均	男	43.7	28
	女	44.4	

④ 就労支援の状況

【就職者の状況】

令和3年度 実績2名

(1) 7月1日就職 → 9月30日離職

(2) 2月1日就職

【工賃実績】

月	工賃総額	就労継続B型		
		合計	人数	平均
4月	300,490	300,490	30	10,016
5月	294,200	294,200	31	9,490
6月	322,040	318,000	30	10,600
7月	367,560	363,700	29	12,541
8月	326,630	321,510	27	11,907

9月	363,180	351,270	28	12,545
10月	405,980	401,340	28	14,333
11月	304,600	302,880	28	10,817
12月	446,280	444,090	28	15,860
1月	449,940	446,870	29	15,409
2月	286,395	283,515	29	9,776
3月	291,470	287,590	28	10,271
年間	4,158,765	4,115,455	345	
平均	346,564	342,955	29	11,929

2 ホームズあまみ

①利用者の状況

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数 2022年3月31日現在 (人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	46	46	45	45	46	46	46	46	46	46	46	46
当月入所者	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G H	男性	42	42	41	41	41	41	41	41	41	41	41
	女性	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5
	計	46	46	45	45	46	46	46	46	46	46	46
	利用率	97.8	95.7	95.5	95.7	97.9	97.9	97.4	96.4	96.8	96.7	97.7

②その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況） 2022年3月31日現在 (人)

事業名		GH
障害支援区分	区分6	1
	区分5	7
	区分4	10
	区分3	22
	区分2	4
	区分1	2
	区分なし	
援護市別利用者数		松原市 19 大阪市 10 河南町 2 岸和田市 2

	高槻、枚方、門真、 大東、東大阪、八尾、 柏原、羽曳野、 高石、大阪狭山、和 泉、阪南、奈良県斑 鳩町 各 1
--	--

③年齢の状況

(人)

事業名		共同生活援助
19 歳以下	男	—
	女	—
20 歳～29 歳	男	2
	女	0
30 歳～39 歳	男	1
	女	2
40 歳～49 歳	男	17
	女	3
50 歳～59 歳	男	16
	女	0
60 歳～69 歳	男	2
	女	0
70 歳以上	男	3
	女	0
平均	男	50.0
	女	42.8

④ 夕食提供利用状況

温かい作り立ての夕食を囲んで団欒をしていただくことを通じて、サービス利用の必要があるにもかかわらず関係が付きにくい方などが徐々に支援につながっている。

(人)

夕食提供／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
夕食提供対象人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
延べ人数	41	35	42	38	36	38	41	39	37	35	36	43

支援センターい～な

I 事業概要

【全体】

支援センターい～な各事業の利用者は、65 歳以上の高齢者が多く、加齢に伴う心身機能の低下により、これまでの生活スタイルに変化が生じている。どんなときでも、「自分らしく生きる」をモットーに、利用者のニーズに応えられる事業所を目指す。そのために、事業所間の横断的な協力体制を強固なものとし、支援員、看護師、栄養士等が一丸となって、外部の関係機関と連携し、利用者が安心して暮らせるよう支援した。

【グーテン生活介護】

利用者の尊厳(人権)を大切にし、職員及び事業所の専門性を高めていく。また、より良い支援が提供できるよう、個別支援と利用者のエンパワメントに着目した支援を行う。二分化している利用者の状況、在宅の若年層“ヤング”と、ホームズい～な・ホームズみのおを中心とした高齢者層“シニア”に分けて、重度、高齢化それぞれのチームに何が必要かを職員ひとり一人が主体的に考え、互いの状況を共有し、対応できるよう「グーテンは一つ」という意識で支援に取り組んだ。シニアとヤングでアプローチの方法は異なるが「自分らしく生きる」を大切にして次年度からは「チーム支援」を追求して行く。

【ホームズい～な】

高齢であっても地域で自分らしく生活できるように、障害福祉サービスと介護保険サービスの併用や、地域の社会資源を活用しながら、個々の社会とのかかわりを大切にする。グーテン利用者においては、特に、日中活動の中で充足されるニーズと、ホームでの安定した生活を継続していくためのニーズを整理し、事業所間で連携したサービス調整を行った。

【ホームズみのお】

入所施設からグループホームに移行して 4 年が経過した。生活場面の設備や環境は、バリアフリー化され、居室はプライバシーに配慮したゆとりのある空間が保たれている。日々の生活がどのように変化したのか、地域資源の活用はできているか、利用者の満足度はどの程度か等、支援の質の検証が必要な時期となった。利用者の人権を守るために事業所として取り組む課題を精査した。

【短期入所/日中一時支援】

家族のレスパイトや自立に向けての支援として、短期入所、日中一時支援事業を実施する。短期入所については、ホームズみのおでのサービス提供となるため、コロナ禍で受け入れができなかった。

【ヘルパーステーションかやの】

移動支援事業は、「ホームズい〜な」「ホームズみのお」の利用者が中心であるため、ひとり一人のニーズを丁寧に拾い上げ、余暇支援につなげた。コロナ禍で外出の機会が少なかった。

【支援センターい〜な 居宅介護支援事業】

主に65歳以上の利用者が介護保険サービスを利用する場合の相談やケアプランの作成、サービス調整などを行った。

令和3年9月末で事業を廃止した。利用者の意向を尊重しながら、新たな事業所への移行をていねいに進め全員が新しい事業所と契約した。

【大阪育成会相談センターみのお分室】

相談支援専門員3名（1名兼務）体制で、引き続き相談支援事業費請求事務等の管理的役割を担いながら、相談支援の質の向上を目指した。10月からは相談員2名体制で相談支援事業を行った。

Ⅱ 事業内容

- | | |
|--------------------------------|---------|
| ○ グーテン（生活介護事業） | 定員 40 名 |
| ○ ホームズい〜な(共同生活援助事業) | 定員 40 名 |
| ○ ホームズみのお(共同生活援助事業) | 定員 20 名 |
| ○ ホームズみのお(短期入所事業 併設型) | 定員 5 名 |
| ○ ホームズみのお(日中一時支援事業) | 定員 5 名 |
| ○ ヘルパーステーションかやの(居宅介護事業/移動支援事業) | |
| ○ 支援センターい〜な(居宅介護支援事業) | |
| ○ 大阪育成会相談センターみのお分室 | |

Ⅲ 令和3年度重点項目(計画)

【全体】

1 新型コロナウイルス感染症への対策

①新しい生活様式の実践

日常生活上での基本的な手洗い、手指消毒、検温、こまめな換気、3密の回避、健康チェックなど、引き続き感染症対策を徹底した。また、利用者への感染予防の意識付けに効果があった。顔認証温度検知システム（スタンド型体温計）を利用したが、データ化により、利用者、職員の体調の変化に素早く対応する。

②新型コロナウイルス感染症のワクチンへの対応

クラスター防止の観点から、必要に応じPCR検査の受検を行う。また、嘱託医、協力医療機関の協力のもと、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に向けた情報収集と、利用者等への説明、意思確認を行い、接種に必要な支援を行った。3回目のワクチン接種まで終えることができた。

2 い〜な事業間の横断的な協力体制の確立

い〜な職員は、担当の事業だけでなく、相互に協力し、適切なサービスと丁寧な支援を提供する。グーテンは、ホームズい〜なやホームズみのおの利用者が8割を超える現状から、現在の課題や対応について、い〜な全体で共有し、利用者中心の支援に結びつけるためのケアマネジメント会議を引き続き定例で実施する。

グーテン月2回の開所日以外の土曜日は、グーテン職員が、グループホームを巡回または訪問し、食事の見守りや余暇支援等のバックアップ業務を行う。このように日中事業職員も地域生活支援の実際を知り、休日の個別ニーズの選択肢を広げる一翼を担う。

3 人材確保と育成

利用者像の変化に伴い、職員構成の見直しが必要である。支援に高い専門性が必要な若年層・中年層の利用者や、介護の技術や知識を必要とする高齢層に対して、対応する支援員や世話人の個々の支援力が試されている。慢性的な人材不足を解消するため、採用条件の見直しと、継続したOJT、研修の機会を確保した育成に取り組む。

【グーテン生活介護】

1 個に着目した丁寧な支援

- ①合理的配慮を具体的に表現した、個別支援計画に基づいた支援を展開した。
- ②日中のプログラムに変化を持たせ、利用者の興味を引き出す支援を行った。
- ③転倒や喉詰め、排泄にまつわる支援など、高齢障害者への状態に合わせた介助技術を学び、プライバシーへの配慮を怠ることなく支援を行った。

2 信頼される事業所を目指す

- ①利用者、家族の相談を真摯に受け、正しい言葉と丁寧な言葉づかいで対応した。
- ②地域、支援学校、関係機関との連携、協力を大切にし、信頼される事業所となるよう心掛けた。
- ③利用希望者の見学・相談は、手順やプロセスを丁寧に行い、関係者との信頼関係を築き、卒業後の進路として選択してもらえるよう努め、ニーズと信頼に応えることで利用率を安定させる。

3 多職種連携

関係機関との連携はもとより、利用者の状態の変化に応じて、歯科やPT・OT、精神科オフィスとも連携しながら、地域の資源の開発に努めた。

【ホームズ】

1 ホームズい〜なとホームズみのおの一体的な運営

利用者の重度化・高齢化の問題は重要課題である。世話人、生活支援員の業務改善、支援力のスキルアップに努め、利用者が安全に安心して暮らせる事業運営を行う。

世話人、生活支援員にとって、働き甲斐のある職場となるよう、職員が相互の支援に入り、状況の把握に努めることで、利用者支援に関する世話人の不安が解消され、効果的なOJTが実施できる。また、今後のい〜な全体のグループホームの役割についての検討が可能となる。引き続き、消防法への対応（支援区分4以上：Hい〜な80%、Hみの

お 100% 65 歳以上：H い～な 74%) は随時、適切に取り組む。

2 ホームズの再編成

重度化高齢化により、現状のグループホームでの生活を継続するにあたり、物理面（階段、段差など）や環境面（近隣との関係）において課題が生じた場合には、暮らしやすい環境への転居やホームの閉鎖、移転等も含めた再編成を行う。また、夜間支援体制の見直しを行い、必要に応じた生活支援員の配置を行う

3 複数サービス利用に向けた調整

障害福祉サービスと介護保険サービスの併用、または、複数の事業所の利用等、地域の社会資源を柔軟に活用している。コロナ禍においても、必要なサービスは継続して利用できるよう、相談支援専門員、居宅介護支援専門員との連携を重視する。

4 成年後見制度の活用を引き続き進めていく

【ヘルパーステーションかやの】

コロナ禍の中では、外出の機会さえも制限されるので、身近な場所の意外な活用方法、の提案を行う。また、利用者の意思を改めて確認するため、グループホームや日中活動の職員と協力し、移動支援に関するモニタリングと再アセスメントの期間を設ける。

IV 全体の課題と取組

1 新型コロナウイルス感染症への対策

①新しい生活様式の実践

日常生活上での基本的な行動には、パーテーションや CO2 モニターを設置し、引き続き感染症対策を徹底した。また、顔認証温度検知システム（スタンド型体温計）を利用し、ホームでの検温体制の徹底（体温計の統一）や健康管理のデータ化により、利用者、職員の体調の変化に素早く対応していった。また、クラスター防止の観点から、定期的に高齢者施設従事者等 PCR 検査を実施した。

11 月には箕面市の感染制御部の副部長が い～な に来訪し、感染対策についての評価と助言をもらい、必要な対策を行った。

第 6 波のさなかには嘱託医と、陽性者が出たときに職員が濃厚接触とならないための対策について話をし、新たに必要な備品（N95 マスク）を購入し、グーテンの送迎ドライバーや発熱者が出たときの支援時に使用した。

12 月には新しい生活様式を取り入れたイベント「い～なまつり」を ZOOM を用いて実施した。2 年ぶりのイベントが実施できたことで利用者・職員共に楽しい時間を過ごすことができた。

②新型コロナウイルス感染症のワクチンへの対応

また、嘱託医、協力医療機関の協力のもと、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に向けた情報収集と、利用者等への説明、意思確認を行い、接種に必要な支援を行った。（計 3 回の予防接種）

ホームズ い～なの利用者で、ワクチン接種 1 回目・2 回目に対して副反応の様子

確認や、副反応の症状が悪化した場合はホームズみのおで対応した。

また、ホームズみのお、ホームズい〜なで陽性者が発生した際には、事業間（ホーム、日中、相談支援）の垣根を越えて対応を行った。看護師の指示のもと、ゾーン分けや24時間勤務で職員を固定し勤務交代しながら陽性者支援を行った。陽性者対応に関して、行動障害のある方への支援方法や陽性者対応にあたった職員のメンタルケアなどの課題が残った。

2 い〜な事業間の横断的な協力体制の確立

い〜な全体で利用者の生活を支えるために、横断的な会議を開催し職員間の連携を行った。

- ①い〜な連絡会は主任以上の会議とし、い〜な全体の運営の方向性を一致させ、支援の共有化が図れるようになった。
- ②マネジメント会議は、相談支援を中心にホームズ、グーテンの支援員と一緒に利用者の支援の方向性について統一した。また、その中で看護師、栄養士と協働して利用者の健康的な生活を支えるために本人参加の「健康相談会」を順次実施し、利用者が主体的に取り組めるよう、本人の意向を尊重しながら取り組んだ。
- ③職員のパワーハラスメント事案を受けハラスメント撲滅委員会を設置し毎月1回開催をした。ハラスメント撲滅のため職員へのメッセージの発信、アンケートの実施、目安箱の設置、啓発ポスターの掲示、管理職を対象とした研修を実施した。
- ④土曜開所日以外の土曜日の日中、世話人配置が必要なホームや、コロナ対応（濃厚接触者対象など）による日中の支援等に、グーテンの職員が支援に携わった。
- ⑤ホームズい〜な、ホームズみのお合同で職員会議を実施、業務分掌の再編を行い、横断的な事業運営を実施した。

3 人材確保と育成

慢性的な人材不足を解消するため、随時WEB、紙媒体による求人活動を実施した。採用者もいる一方、退職者もあり、ホーム世話人の充足には繋がらなかった。その結果、派遣会社・シルバー人材センターを活用した。

グーテンは生活支援員の確保ができ、慢性的な人材不足が解消しつつある。

【グーテン生活介護】

1 個に着目した丁寧な支援

- ①合理的配慮を具体的に表現した、個別支援計画に基づいた支援を展開した。
- ②日中のプログラムに変化を持たせ、利用者の興味を引き出す支援を行う。
- ③転倒や喉詰め、排泄にまつわる支援など、高齢障がい者への状態に合わせた介助技術を学び、プライバシーへの配慮を怠ることなく支援を行う。

令和2年度に取り組んだ活動プログラムに基づきサービス提供を行った。満足度調査は今後の課題であるが利用者様、ご家族様はもとより支援学校、見学者にも関心を示していただけた。

安全、健康面については、嘱託医・協力医療機関や地域の機関と相談・協力しながら問題解決に当たった。

2 信頼される事業所を目指す

地域の関係機関と連携を図ることで利用者様、ご家族様の相談や外部からの利用相談、地域課題に関する相談も増え、認知度も上がっていると思われる。それに伴い、令和4年度の利用希望が新卒者3名と既卒者1名の確保につながった。

3 多職種連携

い〜な内（各事業、職種）、い〜な外（地域、医療、学校など）の動きを意識して取り組み基盤を作ることができた。

【ホームズ】

1 ホームズい〜なとホームズみのおの一体的な運営に向け、職員間での協力体制を整えた。

①ホームズみのおの世話人不足が顕著で、所長、課長、主任等管理職の泊勤務が常態化しているため、ホームズい〜なのバックアップ職員がフォローに入るようになりホームズみのおの泊勤務や支援業務ができるようになった。

②ホームズい〜なの利用者で、転倒や体調不良で、24時間の支援、経過観察の必要な場合に、一時的にホームズみのおの短期入所での受け入れを行った。同様に、ワクチン接種で1回目・2回目に対して、しばらくしての反応（日々の動きと違いなど）など様子確認を行った。また、ホームズい〜なでの生活が難しくなった方2名をホームズみのおで受け入れた。

2 ホームズの再編成

①府営住宅の建て替えのためさくらホームが転居となった。結果、暮らしやすい生活環境へ移行することができた。

また、物理面や環境面での問題による、高齢者施設など住居の転居や、ホーム間移動など再編については検討し、家族や後見人と話をしながら進めたが、コロナ禍の中スムーズに移行することは出来なかった。

②ホームズい〜なの住宅環境（段差、手すり、トイレ、風呂等の設備）では、地域生活を継続することがむずかしいケースが増えてきた。介護保険のケアマネジャーと連携し利用者が安心して生活ができるよう、サービスの併用や環境整備をすすめた。

3 複数サービス利用に向けた調整はホームの再編も含めて利用者の状態で連携し進めている。

4 成年後見制度の活用について引き続きご家族への提案等を進めている。

【ホームズの現状】

2022年3月現在

	ホームズみのお	ホームズい〜な
ホーム数・定員	4か所 20名	8か所 31名
平均年齢	63.2歳（49歳～77歳）	61.1歳（29歳～84歳）

平均支援区分	5.2	4.3
区分4以上の割合	100%	81%
65歳以上の割合	57%（11名）	48%（15名）
	利用者3名退所（療養施設1名・介護施設1名・死去1名） ・2月中旬からコロナ陽性者（利用者4名支援員1名）判明。うち利用者1名入院。3週間隔離措置。 ・利用者の高齢化に伴うADLや認知機能の低下がより顕在化する	コロナ対策の徹底。しかし、ホーム（自宅）という点でマスクの徹底が難しい。 陽性者や濃厚接触者の対応が1月2月に多かった。 ・介護施設へのサービス変更やディサービスの利用増加の検討が増えている。

【ヘルパーステーションかやの】

コロナ禍の中では、外出の機会さえも制限されることが多く、身近な場所での利用となった。

V い〜なみらいプロジェクトの実施

【会議の経過と内容】

○第1回会議 令和3年8月4日（水）16：00～18：30

- ・パワハラの経過報告
- ・ホームズみのおの現状確認及び課題整理

○第2回会議 令和3年9月1日（水）15：00～17：45

- ・ホームズみのおの役割の確認
- ・現在の職員配置状況の確認
- ・法人全体に非常事態として職員の応援要請依頼を決定

○第3回会議 令和3年9月13日（月）15：30～17：45

- ・課題整理表から進捗状況の報告
- ・非常勤面談の状況報告
 - 人手不足による過重労働
 - 職員間の人間関係の悪さ
 - 支援内容が統一されておらず、周知に仕方が不十分
 - 職員自身が自分たちも大切にされていると思えることが大事

○第4回会議 令和3年10月12日（火）14：00～16：00

- ・い〜なみらいプロジェクトの本格始動

- ・パワーハラスメントのアンケートの結果報告
 - ・法人内応援状況の確認
- 第5回会議 令和3年11月16日（火）14：00～16：00
- ・管理体制の変更
 - ・業務内容の整理・手順書の見直しと作成
 - ・見守りカメラの導入
 - ・各事業の引継ぎ内容を1枚にまとめ、事業所内での引継ぎ事項が共有できる媒体
 - ・法人内応援・自動車通勤の許可
 - ・パワハラアンケートのまとめ（主任以上の管理職で内容の共有）
 - ・職員へのメッセージの確認
- 第6回会議 令和3年12月16日（木）14：00～16：00
- ・見守りカメラの設置について家族の同意を得ることができた。
 - ・ナースコールの設置
 - ・11/30にいなな職員メッセージの発出
→キーワード「みんなが笑顔になる職場」
 - ・大学の教授との研究のコラボの模索・研修の企画等
- 第7回会議 令和4年1月17日（月）14：00～16：00
- ・1月付で正規職員の人事異動による配置
 - ・1月12日（水）管理職のためのハラスメント研修を実施。講師：福島弁護士
- 第8回会議 令和4年3月22日（火）14：00～16：00
- ・年間のまとめ（進捗状況確認）
 - ・カメラの設置により状況把握ができるようになった
→コロナの陽性者対応時にも状況把握ができた
 - ・2月にコロナ陽性者が発生した時にいなな事業全体で陽性者対応ができた。
→ハラスメント対策で職員間での情報共有や一体感が生まれた成果でもある
 - ・ホームズみのおのシフトが埋まらない場合にも他の事業所とも調整できる状況ができた
 - ・ホームズい〜なとホームズみのおのシフトを別々に出なく一人で作成することになり調整がスムーズに行えるようになった
 - ・ハラスメントのアンケートの実施（半年後の状況把握）
 - ・い〜なとしての令和4年度の年間の面談・アンケート等のスケジュールの提示
 - ・次年度以降もい〜なとしてはリスクマネジメント委員会・虐待防止委員会・ハラスメント撲滅委員会を設置

Ⅵ 年間行事、日課など

1 グーテン日課

9:30	通所・バイタルチェックなど
10:30	午前の活動
11:30	健康体操 口腔体操など
12:00	昼食 休憩 歯磨き
13:00	午後の活動
15:00	作業終了 片づけ 終礼
15:30	帰宅準備
16:00	退所

2 年間行事

い～な祭り

その他の行事は新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

事業所内で、少人数での活動に変更

<ヤングタイムスケジュール>

	月 (言葉)	火 (心)	水 (体)	木 (仕事はたらく)	金 (創作つくる)
午前	作業 チェアロビクス	書道・おんどく／ 動作法	徒歩プログラム	作業	作業 (工賃支給)
午後	音楽・おんどく	清掃(環境整備) 園芸作業含む	つばき会 作業	作業	創作

<定例活動のプログラム>

チェアロビクス・書道・動作法・手芸・ライフプラザバザー・健康エクササイズ・もみじ会・つばき会・お茶会・お華・アート

Ⅶ 事業概要

1 利用者の状況

<ホームズい～な>

(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
空き	3	3	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	男性	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	女性	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	計	33	33	33	31	31	31	31	31	31	31	31	31
	利用率	85.1	85.1	86.5	81.3	78.9	80.6	81.8	81.2	78.6	75.9	77.2	79.0

＜ホームズみのお＞

(人)

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員		20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
空き		0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	2
当月入所者		20	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者		0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1
みのお	男性	10	9	9	10	10	10	10	10	10	10	9	8
	女性	10	10	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	計	20	19	18	20	20	20	20	20	20	20	19	18
	利用率	86.3	84.5	90.2	95.0	92.7	95.8	95.6	95.8	94.5	92.9	85.2	80.8

＜ホームズみのお短期＞ 定員 5

(日)

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男性		0	0	0	0	4	2	2	2	0	0	0	0
女性		0	0	0	2	7	2	2	0	0	0	11	3
計		0	0	0	2	11	4	4	2	0	0	11	3

＜ホームズみのお日中一時＞

(日)

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男性		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性		0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
計		0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0

＜生活介護 グーテン＞

(人)

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		56	56	54	54	53	53	53	53	53	53	52	51
当月入所者		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
当月退所者		0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	男性	24	24	23	23	22	22	22	22	22	22	21	20
	女性	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31

	計	56	56	54	54	53	53	53	53	53	53	52	51
	利用率	75.1	72.3	74.6	76.3	73.9	77.8	78.0	78.3	76.5	74.2	47.2	69.7

＜居宅介護 ヘルパーステーションかやの＞

(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
豊中市	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1
吹田市	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	1
門真市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
東大阪市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
箕面市	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0
守口市	0	0	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1
堺市	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1
計	5	3	4	5	3	5	6	5	6	5	2	5

◎その他利用者情報

(人)

事業名		ホームズ い～な	ホームズ みのお	短期入所	日中一時支 援	生活介護
障がい 支援 区分	区 分 6	3	5			10
	区 分 5	11	11			18
	区 分 4	11	3			18
	区 分 3	4	0			2
	区 分 2	2	0			3
	区分1以下	0	0			
援護市別利用者数		寝屋川市 3 豊中市 12 守口市 2 東大阪市 1 吹田市 1 西宮市 1 交野市 2 門真市 1 箕面市 4 堺市 1 大阪市平野区 1 大阪市東淀川区 1 大東市 1	箕面市 4 豊中市 2 豊能町 1 吹田 4 大阪市 3 松原市 1 摂津市 1 高槻市 1 彦根市 1 東大阪市 1			箕面市 16 豊中市 7 守口市 2 交野市 2 吹田市 9 寝屋川市 2 門真市 1 西宮市 1 東大阪市 1 大阪市平野区 1 大阪市淀川区 1 大阪市東住吉 1 大阪市中央区 1

					大阪市大正区 1 高槻市 1 堺市 1 彦根市 1 摂津市 1 松原市 1
--	--	--	--	--	--

さくら

支援センターさくら、ホームズさくら・なでしこ、就労支援統括センターみいーん

事業内容

- | |
|--|
| I 生活支援部門 |
| 1 ホームズさくら・ホームズなでしこ
共同生活援助事業・併設型・空床型短期入所 |
| 2 短期入所・日中一時支援事業 |
| II 相談支援部門 |
| 1 さくら相談支援事業 |
| 2 大阪あんしん賃貸支援事業 |
| 3 北河内東障害者就業・生活支援センター事業 |
| 4 大東市障害者インターンシップ事業 |
| 5 大東市就労支援コーディネーター活動推進事業 |
| 6 大東市障害者職場定着支援事業 |
| III 就労支援部門 |
| 1 自立訓練（生活訓練）事業 |
| 2 就労移行支援事業 |
| 3 就労継続支援 A 型事業（フードサービス・ビルメンテナンス） |
| 4 就労継続支援 B 型事業（さくらプラス） |
| 5 就労定着支援事業 |

I 生活支援部門

- 1 ホームズさくら・ホームズなでしこ（共同生活援助事業・併設型・空床型短期入所事業）

【事業概要】

ホームズさくらはホーム数 15 か所、定員 67 名と、ホームズなでしこは 2 か所、定員 19 名の合計 17 ホーム、合計定員 86 名の地域生活を支援している。個別支援計画に基づき、利用者ひとり一人に合わせた支援内容を設定し、相談支援事業と連携をとりながら、地域で豊かな暮らしを送ることができるよう支援にあった。

一方で、ホーム利用者の高齢化が顕著になっており、訪問看護ステーションによる医療連携を通じて健康管理を強化し、病気やケガの予防に努めるとともに、年齢に応じた本人の体力、気力等にふさわしい働き方を提案し、安心して安全な支援の提供を行った。

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、一人ひとり居室での食事や外出のこと、余暇の楽しみ方など、利用者・ご家族に理解と協力を求めながら必要な対応を行った。

【令和 3 年度重点課題及び取組】

- (1) 多額の預り金の整理

預り金は社協や成年後見制度の利用と、信頼できる家族への返金などでかなり整理された。一方で、利用者の日々の小遣い等の管理や、銀行等での入出金・両替業務などに

職員が時間を費している実態が見えてきたため、一定のサービス提供料をもらいながら安心・安全に管理する体制を整えた。ホームズさくら・なでしこは、令和4年10月～貴重金品等預かりサービスを開始するために、規程や契約書等の作成を行い、次年度からの実施に向けて取り組んだ。引き続き、高額な預り金に関しては、日常生活自立支援事業や、成年後見制度の利用を進め、適切なサービスの提供に努めるものとしている。

(2) 気力体力に応じた安心安全な生活の提供

新型コロナウイルスが猛威をふるう中、法人の対策指針に基づいて、利用者、ご家族、世話人、利用者の勤務先職場、日中活動先事業所、ヘルパー事業所等と密に連絡を取り、緊急事態宣言等の発令の有無に応じて行動制限の範囲を決め理解、協力を得て支援を続けた。今までのように外出、外食、カラオケなどができないことを受け入れられない利用者に対しては、くり返しわかりやすく説明し、ご家族の協力も得て本人が理解できるよう支援した。

新型コロナワクチン接種支援では、令和3年6月ごろから利用者・ご家族等への意向調査を行い、訪問看護ステーションと連携を図りながら、ホームズなでしこでの集団接種（6/30. 7/22. R4. 3/6 計3回）を実施した。接種を希望しない方にも意向を尊重しながら、3月末時点では、利用者4名以外は、おおむね3回目のワクチン接種を終えている。

新型コロナウイルス感染者発生に関しては、6/22 男性1名、8/27 女性1名、R4. 2/2 女性1名の陽性が判明。宿泊療養施設や病院への入院等により、他利用者や世話人・職員への感染拡大はなかった。他にも発熱者等の発生もあったが、適宜検査を実施し、対応にあたった。

(3) 世話人確保への取り組み

ホームズさくら・ホームズなでしこの世話人契約数がR4. 3月末時点で70名。

今年度は主に求人サイトを積極的に活用し世話人確保に取り組んだ。その結果、令和3年度は15名（内12名が求人サイトからの応募）の世話人を採用することができた。ただ、コロナ禍で世話人ミーティングの開催が捗らなかったこともあり、新たに採用した世話人の育成や定着においては、一部のバックアップ職員に負担がかかってしまう状況があった。

また、宿直世話人に対して有給休暇消化時にも支給していた「泊手当」の支給廃止について、対象となる29名の世話人への説明や確認書の取り交わしを行った。引き続き、生活支援充実のために世話人の確保以外にも育成や定着に取り組んでいく。

行事関係（ホームズなでしこのみ）

①週間予定

毎週月曜日・金曜日 20時から全体清掃

毎週水曜日 20時から利用者ミーティング及び居室清掃

②年間行事

誕生日ケーキの提供（４．８月以外）
 行事食の提供（８/17. 8/22. 10/17. 12/26. 1/1. 1/2. 3/13）
 エンパワメント講習：
 11/8 おしゃれを楽しむ（ネイルアート）
 日曜日（不定期） からだの健康（エアロビ）

事業概況

１ 利用者の状況

（人）

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		82	82	82	82	82	82	82	81	81	80	80	80
当月入所者		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
ホームズさくら	男性	48	48	48	48	48	48	47	47	47	47	47	48
	女性	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	計	64	64	64	64	64	64	63	63	63	63	63	64
	利用率	82.3	91.4	84.3	84.1	85.2	86.8	85.6	88.9	82.3	84.6	86.1	88.7
ホームズなでしこ	男性	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	10
	女性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	合計	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	18
	利用率	87.2	88.4	89.4	86.9	89.8	89.9	90.5	86.5	82.1	84.3	84.8	90.6
併設型空床型 短期入所	男性	1	1	2	1	1	2	2	3	3	1	1	2
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	2	1	1	2	2	3	3	1	1	2
	利用率												

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

その他利用者情報

（障害支援区分と援護市の状況）

令和４年３月３１日現在（人）

事業名		なでしこ	さくら
障害支援区分	区分 6		
	区分 5	2	6
	区分 4	7	17
	区分 3	6	20
	区分 2	3	19
	区分 1	0	1

	区分なし	0	1
援護市別利用者数		大阪市 4 人 大東市 5 人 寝屋川市 2 人 枚方市 1 人 交野市 1 人 八尾市 1 人 堺市 1 人 門真市 1 人 柏原市 1 人	大東市 19 人 四條畷市 8 人 東大阪市 8 人 枚方市 6 人 寝屋川市 4 人 門真市 3 人 大阪市 3 人 交野市 4 人 八尾市 2 人 守口市 2 人 吹田市 1 人 豊中市 1 人 松原市 1 人 堺市 1 人

(年齢の状況)

(人)

事業名		なでしこ	さくら
19 歳以下	男		
	女		
20 歳～29 歳	男	1	2
	女	2	5
30 歳～39 歳	男	5	9
	女	3	4
40 歳～49 歳	男	3	15
	女	0	5
50 歳～59 歳	男	0	17
	女	3	2
60 歳～69 歳	男	0	3
	女	0	1
70 歳以上	男		
	女		
平均	男	36.4 歳	46 歳
	女	39.3 歳	32.8 歳

2 短期入所・日中一時支援事業

【事業概要】

将来に向けて自立生活をイメージした具体的な生活場面での様々な経験を通じ、必要な技術等の習得を支援すると共に、家族の入院等、緊急時の支援にも対応できるようサービスを提供している。地域の中で本事業が担う役割を理解し、一人ひとりへの丁寧な支援を実践するとともに、家族へのレスパイトケアの対応やさくら内他事業との連携による資源活用等、引き続き多様化する利用希望に応えられる体制整備に努めた。また、地域生活支

援事業（日中一時支援）の実施による日中活動の提供など、幅広いサービス提供により利用者ニーズに対応した。

【令和3年度重要課題及び取組】

令和3年度は開所日数を週4日から週6日へ増やして事業を実施した。今後も安定した宿直勤務体制の確保に向けて、適宜求人等の対応を行っていく。開所日数を増やしたことに伴って、ここ数年受け入れができていなかった新規ケースの受け入れについても、法人内ケースを中心に5名を受け入れた。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、蔓延防止等重点措置が実施される中であったが、定員を本来の6名から原則1室1名の4名に、食事についても原則各居室で提供する等、感染防止対策を徹底して開所し利用希望者を受け入れた。

◎居宅支援サービスの状況（令和3年度）

（人）

利用量＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
日帰り4H	3	2	3	8	5	6	5	7	8	4	3	8	62
日帰り8H	9	0	3	13	10	12	31	30	32	19	27	36	222
1泊2日	86	72	82	76	60	84	86	102	86	80	80	74	968
2泊3日	36	24	36	45	15	15	39	24	33	30	24	15	336
3泊4日	8	4	4	4		8	3	8	4	4	4		48
4泊5日									5			5	10
5泊6日													
6泊7日													
7泊8日													
緊急一時													
宿泊延べ日数計	130	100	122	125	75	107	125	134	128	114	108	94	1362

Ⅱ 相談支援部門

1 さくら相談支援事業（特定・一般・障害児）

【事業概要】

利用者等がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者等の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者等の選択に基づき、適切な保健、医療、福祉、就労支援、教育等のサービス（以下「福祉サービス等」という。）が、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮して行うものとする。利用者等の意思及び人格を尊重し、常に利用者等の立場に立って、利用者等に提供される福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業を行う者に不当に偏ることのないよう、公正中立に行うものとする。

【令和3年度課題と対応】

令和3年1月より、相談員を1名配置。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、モニタリング等の聞き取りを電話での対応に切り替え、事業所への訪問、家庭への訪問を控えている。書類作成数が減るわけではないが、相談員1名を配置したことで、書類作成の時間を割り振ることが出来ている。

地域生活者の受診同行等の直接対応が増えてきている。福祉サービスに繋げる必要があるが状態が度々変化する中で、福祉サービスに繋がられる状況まで至っていない。今後も様子を見ながらではあるが、福祉サービスに繋がられるよう調整をしていく。

よりきめ細やかな対応が出来るよう、引き続き効率的・効果的な支援体制づくりを検討していく。

◎相談支援

(人)

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	65	65	64	64	64	64	64	63	61	61	60	60
(内障がい児数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画案作成件数(者)	5	5	11	2	9	7	8	7	6	3	4	5
計画作成数(者)	5	4	5	13	1	9	8	6	6	7	5	4
モニタリング数(者)	16	13	18	8	14	15	11	16	16	11	10	17
計画案作成件数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画作成数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モニタリング数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域定着支援 態勢確保(契約数)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
緊急支援(回)	7	1	3	2	2	12	7	7	8	5	9	8
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 大阪あんしん賃貸支援事業(大東市)

【事業概要】

民間賃貸住宅に入居を希望する知的障害者が、円滑に入居できるよう、民間賃貸住宅に関する情報提供や様々な居住に必要な福祉サービス支援の情報提供等を行なう。令和3年度は実績なし。

3 就労支援統括センターみいーん

就労支援統括センターみいーんは法人内の就労支援を統括していくセンターとして、平成30年4月より大東市(住道)に設置し、丸3年が経過した。今年度も、コロナ関連の

追加予算の関係で人件費の比率が変わり、ワーカーの年度途中での交代など、体制整備に労を要したものの、職員の協力体制の元、何とか1年を乗りきることが出来た。

昨年度は、事務所の密度が高く、令和3年度初めに事務所を移転する。

(1) 北河内障害者就業・生活支援センター事業

【事業概要】

就業と生活を一体的に支援する本事業は、本年度においても、就業・生活相談の取り組みと、障害者雇用啓発という両面からその活動を行った。

近年、大学生だけでなく一般高校の学生にも手帳の有無に関わらず、障害がある学生が増える中、進路を選択する際に課題の多くが表出するため、対応もその進路選択の時期に集中している。ただ、課題解決においてはもっと早い時期にアプローチするべきであり、令和3年度は進路の先生をターゲットに啓発のイベントを行った。

また、令和3年度は、圏域に雇用率ビジネスの農園が進出している事がわかり、大東市と協定を結ぶことから、その適正について大東市と協議を行ってきた。それに加え、地域で雇用率ビジネスについて正しい知識を得てもらうために勉強会を実施した。

また、精神保健福祉士を就業支援ワーカーとして配置してきたが、今年度は心理職の配置を行い、両方の専門職を合わせて週3日配置することが出来、支援体制の強化を図った。

【令和3年度重点課題及び取組】

コロナの影響は今年度も障害者雇用に大きな影響を与えたが、年間を通じた就職者数は例年並みであった。今年度も就職の不安定さから、このコロナ禍の時期をスキルアップに利用する相談者も増えており、就労移行や訓練校を希望・検討することが増えている。

手帳非保持者（障害のある大学生等）への対応については北河内圏域の労働機関及び各大学と協力し、障害のある大学生への支援の試みを話し合う会議を開催継続している。その会議で啓発イベントを企画・実施した。

概要でも述べた通り、雇用率ビジネスが大阪にも進出してくる中で、その根底に企業側の雇用管理に寄り添う機関の少なさが企業を孤立させた側面がある。そこで、企業と伴走し雇用管理のノウハウを習得してもらう必要がある。また、雇用率一辺倒の評価システムにも警鐘を鳴らしていきたい。

その他プログラムや、事業の特筆すべき事項など

- 働いている方との相談（定着支援相談）を定期的に開催し、就労状況の確認と共に余暇の支援を行った。（毎月1回土曜日または日曜日）ただ、昨年は対面よりWEBや電話での相談を積極的に行った。
- エンパワメント研修を上記の相談と同日で開催（隔月1回土曜または日曜日）する予定であったが、コロナの影響で回数を減らして実施している。

◎相談者状況

内 容	件 数 等	備 考
新規相談人数	90 名	(内訳) 知 37 精 34 身 5 その他 14 (発達 13 高次脳 0 難病 1)
延相談件数	3566 回	
職場訪問による定着支援	184 回	※実習支援、訪問付き添い、アフターケア等
就職者	64 名	(内訳) 知 34 精 18 身 5 その他 7 (発達 6 高次脳 1 難病 0)

(2) 大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合 (エル・チャレンジ)

【事業概要】

日常清掃訓練においては、訓練生の就職に向けて意欲・技能の向上を目指す。そのため定期的に現場を訪問し、訓練生及びサポーターに対しての支援を実施する。

短期清掃訓練においては、可能な限り訓練現場周辺地域の育成会各支部に参加していただくとともに、就労意欲への足がかりとなるよう努め、工賃が報酬単価に影響を及ぼす B 型事業への作業提供を積極的に行った。支援センターさくらが B 型を新たに始めたこともあり、清掃作業のニーズが高まり、工賃アップ・実習先の確保に貢献できた。

(3) 大東市委託事業

①大東市障害者インターンシップ事業

【事業概要】

大東市役所の業務等を通じて障害者の就労意欲を高め、就労後の職場定着の促進を図る。

【令和 3 年度課題と取組】

実施啓発に課題があり、4 月から参加者を募集したものの、年度末まで参加者が集まらなかった。SNS を活用し、啓発を行うことにする。

インターンシップ実施後の企業実習の受け入れは了承してもらっているものの、コロナの状況下で実施が難しい状況が続いている。

②大東市就労支援コーディネーター活動推進事業

【事業概要】

前年度と相談数は大きく変わっていない。そんな中、就業・生活支援センターをはじめとする関係機関に相談者の誘導を行った。

次年度も引き続き、ハローワークとの連携に力を入れ、実績を上げていきたい。

【令和 3 年度課題と取組】

景気が上向いていることから相談数は大きく増えていない。そんな中、就業・生活支援センターをはじめとする関係機関に相談者の誘導を行った。

次年度は、ハローワークとの連携強化に力を入れ、実績を上げていきたい。

③大東市障害者職場定着支援事業

【事業概要】

当センター内に職場定着支援コーディネーター1名を配置する。障害福祉サービス事業所（生活介護・自立訓練を含む）を退所後、企業に就職された障害者に対して、所属していた障害福祉サービス事業所の協力を得て支援員を派遣していただき、職場定着をサポートする。

【令和3年度課題と取組】

一昨年前より、障害福祉サービスの「障害者就労定着支援事業」が実施され、それを受け、新制度を利用する事業所に関しては大東市障害者職場定着支援事業の利用は出来なくなった。引き続き大東市民であれば他市の福祉事業所でも利用できる様に交渉を続けるもかなわなかった。その代わり大東市内であれば自立訓練・生活支援の事業所が利用可能となったが、そもそものニーズは少なく本年の新規利用の数は0件であった。一方、定着支援員の養成講座においてはそのニーズが高いものの、コロナの影響で1回のみ開催となった。

（4）訪問型職場適応援助者（ジョブコーチ）

【事業概要】

職場適応援助者支援事業は、職場に出向き、障害特性を踏まえた直接的で専門的な支援を行い、障害者の職場適応、定着を図ることを目的としている。

その支援は障害者本人だけでなく、事業所や障害者の家族も支援の対象としており、事業所の上司や同僚による支援（ナチュラルサポート）によってスムーズに移行していくことを目指す。

【令和3年度課題と取組】

令和3年度は3名のジョブコーチを登録し年間通じて支援を実施した。エルチャレンジの訓練修了者、さくら0B、就業・生活支援センター登録者などを支援している。

Ⅲ 就労支援部門

1 自立訓練（生活訓練）事業

【事業概要】

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者に対して標準2年間にわたって自立訓練（生活訓練）を行い、生産活動その他の活動の機会を通じて、社会生活に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援を提供した。

【令和3年度課題と取組】

利用者自身が自分の人生の主体者として様々な支援を受けながら「自分で考え、自分で決められる」力の獲得を目指して支援を提供した。取り分け、支援学校等の卒業後から利用されるケースが多いことを踏まえ、活動の様々な場面において、できる限り小さな成功体験を積み上げられるよう目標設定に配慮することや、取り組みの結果だけでなく、その取り組み姿勢や過程を含めて評価することに留意し、利用者の自尊感情や自己肯定感の醸

成に繋がる支援の提供を心掛け、その年代に合わせた多様な社会生活体験等の機会提供に努めた。

加えて、さくら内の就労移行支援事業に移行する利用者については、自立訓練事業で積み上げた支援の内容を丁寧に引き継ぐとともに、必要に応じて、事業を横断して直接支援に関わる等、連続性のある支援の提供を心掛けた。

令和3年度は各種の社会生活プログラムだけでなく、個別の支援にも注力し、ひとり一人の支援課題に合わせた自立訓練プログラムの取り組みを実施するとともに、コロナ禍により、しばらく実施できていなかった調理実習等についても、小グループで複数回に分けて行うなどの工夫を行い実施することができた。また、「性」を取り巻く課題へのアプローチを行うべく、先駆的取り組みを実施している事業所への視察や、具体的な支援を提供するうえでの助言等を受けるべく、事業所間連携の体制整備も行った。

2 就労移行支援事業

【事業概要】

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者に対して標準2年間にわたって就労移行支援を行い、生産活動その他の活動の機会を通じて、就労及び社会生活に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援を提供した。

【令和3年度課題と取組】

新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底しつつ、個別支援計画に基づいて、利用者それぞれの「働きたい」に応えられる支援の提供を目指した。取り分け、さくら内の自立訓練事業から事業変更してこられる利用者への支援にあたっては、当該事業で積み上げた支援の内容を引継ぎ、繋がりのある丁寧な支援の提供を心掛けた。また、可能な限り利用者やその家族の希望に沿う就労支援を意識し、就職先を見つけることのみを重要視するのではなく、利用者が就職後もやり甲斐を感じて働ける「ディーセントワーク」の実現を追求する支援の提供を目指した。

上半期は新型コロナウイルス感染症について、企業実習を含めた就職活動に少なからず影響を受けるなど思うような支援が提供できなかったが、社会全般がウィズコロナの生活に慣れていくにつれ、企業の採用活動等も活発になり、最終的に年間を通じて6名の就職者を送り出すことができた。

就労定着支援は、利用者数が19名と増加。引き続き、ジョブコーチ、障害者就業・生活支援センター等と連携しながら、本人、家族、企業が安心して働き続けられる支援の提供を心掛けた。

事業概況

① 日課

就労移行支援事業

午 前		午 後	
9 : 00	検温・健康チェック	13 : 00	PM 日課開始
9 : 30	朝礼・AM 日課開始	14 : 15	休憩

12 : 00	昼食（食堂）	14 : 30	日課再開
12 : 30	休憩（作業棟）	15 : 45	日課終了（片付け・清掃）
		16 : 00	終礼・帰宅

自立訓練事業

午 前		午 後	
9 : 30	検温・健康チェック	13 : 30	PM プログラム開始
10 : 00	朝礼・朝の取り組み	14 : 30	プログラム終了（片付け・清掃）
10 : 30	AM プログラム	14 : 45	終礼
13 : 30	昼食（食堂）	15 : 00	夕方の取り組み
13 : 00	休憩（食堂・訓練室）	15 : 15	帰宅

② 年間行事

月	就労移行支援事業・自立訓練事業
5 月	支援学校等進路懇談会（書面による実施）
11 月	支援学校等進路懇談会（WEB との併用）
・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、さくらフェスタや就職者激励会等の主要行事については全て中止した。 ・余暇支援プログラム、土曜開所等のプログラム等の活動についても同様に中止。	

③ 利用者の状況

（人）

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		45	45	47	48	47	47	47	47	47	44	43	39
当月入所者		12	0	2	1	0	0	0	1	1	0	1	2
当月退所者		0	0	0	0	1	0	0	2	1	3	6	16
就労移行	男性	17	17	19	19	18	18	18	17	18	18	17	13
	女性	6	6	6	6	6	6	7	7	6	4	4	4
	計	23	23	25	25	24	24	25	24	24	22	21	17
	利用率	91%	96%	105%	105%	87%	99%	103%	96%	89%	97%	85%	72%
自立訓練	男性	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14
	女性	7	7	7	8	8	8	7	8	8	8	8	8
	計	22	22	22	23	23	23	22	23	23	22	22	22
	利用率	81%	104%	106%	109%	90%	108%	102%	111%	110%	105%	104%	104%

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

※就労アセスメントの利用者は含まない。

その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

（人）

事業名		自立訓練	就労移行	就労定着
障害支援区分	区分 6			
	区分 5			
	区分 4	1		2
	区分 3	3	8	5
	区分 2	1	5	7
	区分 1		1	1
	区分なし	20	15	8
援護市別利用者数		大東市 6 寝屋川市 2 枚方市 5 大阪市 4 四條畷市 3 交野市 2 門真市 1 八尾市 1 東大阪市 1	大東市 9 寝屋川市 4 枚方市 4 大阪市 2 四條畷市 3 交野市 2 門真市 2 東大阪市 2 八尾市 1	大東市 3 寝屋川市 7 枚方市 1 四條畷市 3 交野市 2 東大阪市 3 八尾市 2 柏原市 1 大阪市 1

（年齢の状況）

（人）

事業名		自立訓練	就労移行	就労定着
19 歳以下	男	4	4	
	女	4		
20 歳～29 歳	男	12	12	12
	女	5	7	8
30 歳～39 歳	男		1	1
	女			1
40 歳～49 歳	男		2	
	女			
50 歳～59 歳	男		2	1
	女			
平均	男	19.8 歳	29.6 歳	26.4 歳
	女	19.7 歳	22.1 歳	24.3 歳

(令和3年度工賃状況／就労移行・自立訓練)

	平均支給額	最高額	最低額
4月	5, 241円	21, 580円	300円
5月	4, 392円	22, 040円	660円
6月	4, 723円	24, 360円	600円
7月	3, 826円	19, 220円	540円
8月	3, 475円	16, 810円	110円
9月	5, 005円	18, 970円	60円
10月	5, 439円	21, 350円	350円
11月	5, 258円	20, 650円	660円
12月	5, 307円	22, 980円	260円
1月	3, 837円	15, 600円	100円
2月	5, 291円	20, 400円	250円
3月	4, 973円	16, 930円	140円

3 就労継続支援A型事業（フードサービス・ビルメンテナンス）

【事業概要】

店舗での製造及び接客業務又は出張による販売業務等、雇用契約に基づく就労機会の提供を通じ、働く喜びや社会との繋がりを実感できる場の提供を図るとともに、家と職場の往復だけでなく、生活を楽しむための余暇支援を通じて、社会経験を増やし、コミュニケーション力の向上や上手なお金の使い方を身につけるなど、自分らしい豊かな生活の実現にむけた支援を提供した。

【令和3年度の課題と取組】

コロナ禍により、店舗販売が伸び悩む中、関係先企業や学校等の外販受け入れが徐々に再開。数少ないイベント出店の際には予想以上の売り上げがある等、来場者がイベント開催を待ち望んでいるようなニーズも感じられた。新たな売り上げ確保の取り組みとして、ロスパンのサブスクリプションサービス「Rebake（リベイク）」の活用を開始。定期的な受注があり、これまで廃棄するだけだったロス商品の新たな販路となった。加えて、下半期は百貨店の催事出店も再開。年度を通じて一定回数の出店を継続することで売り上げの確保とブランド力の強化に努めた。

また、昨年度から実施している大阪府福祉情報コミュニケーションセンターの清掃業務受託についても、引き続きみいーんとの連携によりA型利用者1名が清掃作業に従事した。

4 就労継続支援B型事業（さくらプラス）

【事業概要】

店舗での製造及び接客業務又は出張による販売業務等、生産活動等の場面提供を通じて、働く喜びや社会との繋がりを実感できる機会を提供するとともに、家と職場の往復だけで

なく、生活を楽しむための余暇支援を通じて、社会経験を増やし、コミュニケーション力の向上や上手なお金の使い方を身につけるなど、自分らしい豊かな生活の実現にむけた支援を提供した。

【令和3年度の課題と取組】

A型事業の縮小に伴い、令和3年6月から大阪府の指定を受けて新たに事業を開始した。

利用者の受け入れにあたっては、これまでの経過や利用者及びその家族等の意向を十分に尊重した結果となるよう特に留意して進めた。パンの袋詰め事業所内外の清掃作業等、生産活動の機会を提供するとともに、企業等での就労を希望する利用者については、家族や関係機関等と連携して就労支援を実施した。

また、就労移行支援事業の延長申請期間が経過した後、企業とのマッチングがスムーズに行かなかった利用者で、引き続き一般就労を目指す人を対象にしたサービスとして、あくまでも就職を目指すためのプラスアルファ事業「さくらプラス」の対象者については、年度末に利用者の希望する職種での就労継続A型支援事業の利用が決まったため、令和3年度の実施はなかった。

事業概況

①就労継続支援事業 年間行事

月	就労継続支援A型・B型
5月	プチ・ズンチャ（大東市役所駐車場）
8月	ABCハウジング万博公園イベント（ベジハグ）
11月	ロハスフェスタ 2020 秋（ベジハグ）
12月	あすなろ保育園クリスマスイベント
3月	ハッピーアースデイ大阪（ベジハグ）・阪神百貨店催事出店
・毎月：16日はスワンの日として新商品の発表と一定金額以上お買い上げのお客様に粗品進呈（16日が店休日の場合は翌営業日）。	

②利用者の状況

（人）

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就労継続A型	男性	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	女性	7	7	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	計	10	10	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	利用率(%)	77	85	40	43	34	40	38	41	42	41	40	41

就労継続B型	男性			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	女性			3	3	3	3	3	4	4	4	4	4
	計			4	4	4	4	4	5	5	5	5	5
	利用率(%)			39	37	32	39	38	40	44	40	41	40

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

③その他利用者情報

(障害支援区分と援護市の状況)

(人)

事業名		就労継続支援A型	就労継続支援B型
障害支援区分	区分6		
	区分5		
	区分4		3
	区分3	2	
	区分2	1	1
	区分1		
	区分なし	2	1
援護市別利用者数		大東市3 大阪市2	大東市1 大阪市2 吹田市1 寝屋川市1

(年齢の状況)

(人)

事業名		就労継続支援A型	就労継続支援B型
20歳～29歳	男	1	
	女	1	1
30歳～39歳	男		1
	女	1	2
40歳～49歳	男	1	
	女	1	1
平均	男	34.5歳	33歳
	女	35.7歳	35.5歳

(就労継続支援B型平均工賃月額) 28,097円/人 ※7～3月実績・支払月

5 就労定着支援事業

【事業概要】

就労移行支援等を利用して、通常の事業所に新たに雇用された障害者の就労の継続を図るため企業、障害福祉サービス事業者、医療機関等との連絡調整を行うと共に雇用に伴い生じる日常生活又は社会生活を営む上での各般の問題に関する相談・支援及び助言等を行った。

【令和3年度課題と取組】

事業利用中から退所後の本人の生活を意識し、当該事業に対する理解促進の機会を設定して、途切れない、分かりやすい、その人に合ったネットワークを構築に努めた。また、利用者及び家族が支援の必要性を理解した上で事業利用に繋げ、安定した就労継続のサポート体制の整備を心掛けた。

実施に当たっては、就職後半年以降は就労定着支援で毎月1回の訪問支援等を行い、職場内でのナチュラルサポートを目指して、就労先担当者との情報共有を行うとともに、フォローが必要な場合は関係機関とも連携して支援を提供した。

【月別支援実績】

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	13	11	12	12	8	13	12	12	12	11	9	10
女性	7	5	8	7	6	6	6	7	7	5	7	5
計	20	16	20	19	14	19	18	19	19	16	16	15

支援センターしらすぎ・ホームズしらすぎ

I 概要

1. 支援センターしらすぎ

堺市内における「就労を目指す日中活動先」としての役割を大切に、利用者のライフステージに応じた就労支援の実施を目指した。前年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けた1年であったが、多機能型事業所のメリットを活かし、利用者の「働きたい！就職したい！」という願いに応えるべく、それぞれの状況に合わせたサービス提供に努めた。

自立訓練（生活訓練）事業では、社会生活をするうえで必要な知識や身につけておきたいスキルなど、グループワークやプログラムを通じて利用者自身が様々な経験を通して基礎的な力を習得してもらえるように支援した。

就労移行支援事業では、自立訓練事業を経て働くイメージができた利用者に対し、ビジネスマナーの習得や就職ガイダンス、面接練習など、実際の場面を想定して就労に向けた実践的なプログラムの提供に努めた。また、企業実習などの施設外活動も積極的に行い、就労意欲を高めることへの支援にも力を入れて取り組んだ。

就労継続支援B型については、内部規定として設定していた2年間の期限を撤廃し、利用者それぞれのペースに合わせて、あきらめずに就労へのチャレンジが可能になる体制整備を行った。また、離職経験のある壮年期（40歳～64歳）の利用者においては、これからのライフステージに必要な健康管理やQOLの向上につながるようなプログラムを引き続き提供した。

2018年10月からスタートした就労定着支援事業は、順調に契約者数が増加し、今後も当センターから就職した利用者が安定して働き続けることができるよう、ご本人を取り巻く就労先等の状況把握を行い、必要に応じて関係機関との連携をとりながらの支援に努めた。

しらすぎ・ネストの相談支援事業廃止にあたり、堺市エリアの計画相談支援ケースを支援センターあまみ（大阪育成会相談センター）に引き継ぎ、センター内に2名の相談員をあまみから出向配置する形で相談支援を実施した。また、地域の方々の協力を得ながら、駅前に利用者が気軽に立寄ることができる場所としての役割を担ってきた地域活動支援センター事業については、10年を節目に事業を終了した。ネストが積み上げてきた地域活動や地域交流の取り組みを支援センターしらすぎ本体が担い、しらすぎOBやそのご家族への支援体制をはじめ、周辺地域や関係機関との連携を図り地域に根差した事業運営に努めた。

2. ホームズしらすぎ

「ホームズしらすぎ」は、平成29年4月に日置荘原寺町にて地域生活を支援する拠点

として開設し5年目を迎えた。共同生活援助事業は計11か所のグループホームを運営し、その支援体制が機能的に働くように職員・世話人同士のコミュニケーションを大切に、コロナ禍においても、利用者一人ひとりが安心して安全な生活が送れるように、その調整に努めた。

短期入所事業は、主に日常生活スキルの向上や、生活状況をアセスメントする場として自立生活に向けた体験利用を積極的に進めた。

共同生活援助事業（グループホーム）においても、新型コロナウイルス感染症の影響が続いた。国による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、外出や活動に制限が加えられ、それらは年間を通して利用者の生活に影響をもたらすものであった。住居内における手洗い、手指消毒、マスク着用の励行や、換気および定時消毒、部屋食など、コロナ感染症により増加した支援業務を継続した。また、ワクチン接種については、そのメリットとデメリットを利用者一人一人に説明し、希望する利用者に対して、接種にまつわる支援全般に取り組んだ。

しかし、全国的に感染の急拡大が見られた2月には、ホームズ内利用者8名、職員1名の感染が判明し、短期入所棟を陽性者隔離スペースとして陽性者支援に取り組んだ。

Ⅱ 事業内容

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 支援センターしらさぎ（定員 40名） | |
| ○自立訓練（生活訓練）事業 | 定員14名 |
| ○就労移行支援事業 | 定員12名 |
| ○就労継続支援 B 型事業 | 定員14名 |
| ○就労定着支援事業 | |
| 2. ホームズしらさぎ（定員49名） | |
| ○共同生活援助事業 | |
| ○短期入所事業 | |

Ⅲ 令和3年度重点課題とその取り組み

1 選ばれる事業所を目指し、しらさぎの経営の安定を図る。

○新規利用者数が年々減少傾向にあるため、積極的に各学校等が主催する事業所説明会に出かけ、センターの活動PRに努めた。

○グループホームの空き室の解消のための取り組みとして、空き住居の情報をチラシにまとめ、堺市内の相談支援事業所や支援学校等へ定期的にFAX送信を行った結果、新規入居希望者を得ることができた。

また、短期入所事業については、ホームで発生した陽性者隔離スペースの設定等により、休所せざるを得ない期間が一定あったが、概ね年度を通して運営を行った。

○利用者の高齢化に伴い、外部の訪問看護ステーションや訪問歯科との連携を図るなど、

健康維持・管理に努めた。

2 しらさぎ（日中）とホームズが協働しながら、地域生活に必要なサービスを柔軟に提供する。

○短期入所の活用

自立生活に向けた総合的な取り組みとして、支援センターしらさぎの利用者を中心に、働くことへの準備として、生活力の向上に向けた体験利用の場として位置づけ運用した。4月19日～24日と、1月18日～3月31日まで、法人内のコロナ関連隔離スペースとして使用したため休所としたが、それ以外については、週3日コンスタンスに開所した。なお、この運用には、日中事業担当職員も支援に携わり、日中利用者の生活面のアセスメントを行う一助とした。

○しらさぎエリアの業務の連携

日中支援の職員による短期入所業務への応援、また有事の際にエリア内の生活支援業務にも対応できるように、日頃から業務連携と情報共有に努めた。

3 就労支援においては、ライフステージに応じた日中支援事業の選択を提案し、利用者のニーズに合致した就労支援を行います。

○ニーズの把握

昨年度に引き続き、事業所外での実習等に就労担当者だけでなく、利用者担当が同行して支援を行い、作業場内だけでは得られない支援ニーズの把握に努めた。

○自立訓練プログラムの確実な実施

支援学校等からの新規利用者に向けて、「自分で考え行動できる力」をつけるための支援として、生活力（みだしなみ、調理実習、自立生活に必要なことなど）、やコミュニケーション力（報告・連絡・相談のグループワークや困ったときの対処方法など）を身につけることや、基礎能力の向上や維持（数・計算・お金・時計などのワークシート）を図るためのプログラムを提供した。

4 風通しの良い事業運営体制の強化と、安心・安全な生活支援の提供

○風通しの良い事業運営

Hしらさぎでは、利用者の預り金等の貴重金品を管理しているため、引き続き管理体制を整えながら、日常生活自立支援事業の利用や、必要な方には成年後見制度を活用するなど適切な支援に取り組んだ。また、預かり金管理規程を見直すとともに、管理事務の手順を精査し内部牽制の仕組みを強化しました。令和4年度より開始する、貴重金品預かりサービス費導入のために、利用者ご家族へ内容の説明と契約に関する事務を行った。

○感染症や災害等に備えた危機管理体制の整備

新型コロナウイルス感染症のまん延や災害等が発生した場合でも、事業が継続でき

るように事業継続計画（BCP）を作成した。また、避難訓練（年2回）等の実施に取り組んだ。利用者の新型コロナウイルスワクチン接種に関する意思決定支援については、メリットとデメリットをわかりやすく説明し、利用者が自ら接種の判断ができるよう支援した。

支援センターしらさぎでは「新しい生活様式」に基づき、利用者の安心・安全確保に努め、作業空間のレイアウトをはじめ感染予防対策にも十分に配慮した環境整備に努めた。

○支援の質向上・人材の確保

キャリアパス研修制度を軸に、WEBを活用しながら各職員に研修受講の機会を設けた。世話人研修を年に1回行えたが、コロナ禍の影響もあって実施できない状況もあった。また慢性的に不足する世話人・支援員の確保に向けて求人サイトを積極的に活用し、人材の確保をすすめ、利用者が安心・安全な生活が送れるように取り組んだ。ホームズしらさぎでは、今年度からジョブギアへの登録を行い、求人の媒体の幅を広げた。

IV 年間行事、日課など

1. 日課 ※ コロナ禍につき、休憩や給食は2グループに分かれる

午 前		午 後	
8:15～	通所	11:45～13:15	昼食・休憩
9:00～	体操、ランニング	12:45～15:00	作業
9:20	朝礼	15:30	清掃、終礼
9:30～12:15	作業	16:00	終了、帰宅

2. 年間行事 ※ コロナ禍につきほとんどの行事は中止

月	自立訓練事業・就労移行支援事業・ 就労継続支援B型事業	共同生活援助
4月	・堺市障害者スポーツ大会 ——（ソフトボール）——	・主曜サロン（いちご狩り）
5月	・作業参観・懇談会	
6月	・進路担当者懇談会 ・つな good ボウリング	・主曜サロン（ランチバイキング）
7月		
8月		
9月	・避難訓練 ・大阪大会	
10月		・世話人研修（人権研修） ・合同BBQ

11 月	・利用者健康診断 ・日帰り旅行 ・プチしらさぎまつり	
12 月		・育成会旅行
1 月	・進路懇談会	・主曜サロン（新年会）
2 月		・世話人研修
3 月	・避難訓練	
・毎月：休日プログラム———— 土曜日開所 （2 回） ・毎月：10 日—310 商友会清掃 ・不定期： 家族会		

V 事業概況

1. 利用者の状況

①自立訓練（生活訓練）・就労移行・就労継続 B 型・就労定着 (人)

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		39	38	39	38	37	39	39	39	38	38	38	38
当月入所者		1	0	1	0	0	2	0	3	1	0	1	1
当月退所者		0	1	0	1	1	0	0	3	2	0	1	1
自立訓練	男性	12	11	11	11	11	11	11	11	10	10	9	9
	女性	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2
	計	15	14	14	14	14	14	14	13	12	12	11	11
	利用率	87.5	88.1	92.9	87.3	82.3	86.4	86.4	80.8	80.5	70.4	67.9	69.8
就労移行	男性	10	10	10	9	8	9	8	7	6	6	6	6
	女性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	12	11	12	11	10	11	10	9	8	8	8	8
	利用率	91.7	87.3	95.1	82.2	75.4	76.9	75.8	81.1	73.9	66.7	52.5	59.5
就労継続 B 型	男性	10	10	11	11	11	12	13	14	15	15	16	17
	女性	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
	計	12	13	13	13	13	14	15	17	18	18	19	20
	利用率	78.0	79.3	88.4	85.4	85.1	87.7	106.2	101	108.8	97.3	95.7	117.2
就労定着	契約者	15	14	14	13	13	14	14	15	13	13	14	14
	実績	15	14	14	13	13	14	14	15	13	13	12	14

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2. その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

（人）

事業名		自立訓練	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
障害支援区分	区分6				2
	区分5			2	7
	区分4	1		4	7
	区分3	6	1	8	15
	区分2	1	2	5	13
	区分1	0	1	0	2
	区分なし	2	4	1	0
援護市別利用者数		堺市 10	堺市 6 河内長野市 1 和泉市 1	堺市 17 大阪狭山市 1 松原市 1 富田林市 1	堺市 37 泉大津市 3 高石市 2 八尾市 2 大阪市 1 和泉市 1

（年齢の状況）

（人）

事業名		自立訓練	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
19歳以下	男	1			
	女				
20歳～29歳	男	7	6	5	4
	女	2		1	1
30歳～39歳	男			4	5
	女		1	1	1
40歳～49歳	男		1	1	14
	女			1	4
50歳～59歳	男			6	8
	女				2
60歳～69歳	男			1	4
	女				2
70歳以上	男				
	女				1
平均	男	20.8	27.5	44.5	45.8
	女	21	30.5	36.3	49.3
		20.8	28.25	40.8	46.7

3. 短期入所の実施状況（ホームズしらさぎ）

（日）

利用量＼ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1泊2日	18	17	27	23	24	24	29	28	33	14	0	0	237
2泊3日	0	0	0	6	3	3	3	3	3	0	0	0	21
緊急一時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宿泊延べ 日数計	36	34	54	64	57	57	67	65	75	28	0	0	537

4. 就労支援の状況（支援センターしらさぎ／実習実績、工賃支給実績、就ポツ、JC、エルチャレなど）

① 求職・就職・実習の実績

（人）

月	職安	面接	就職	実習
4	0	1	0	18
5	2	1	0	33
6	2	0	0	34
7	4	1	1	50
8	1	1	0	37
9	0	0	1	19
10	2	2	0	23
11	10	0	1	10
12	4	1	1	11
1	6	0	0	7
2	7	1	0	21
3	2	3	1	14
計	40	11	5	277

職安・・・支援員動向による求職活動支援人数（単独で行われた分は計上しない）

面接・・・合同面接会は未実施のため含まない。（ミニ面接会は含む）

② 就職先の業種（内容）

・保育園（清掃） ・物流倉庫 ・税務署（清掃） ・印刷業

③ 実習先の業種（内容）

・製造業（製品組立）
 ・おしぼり工場
 ・エルチャレンジ（清掃訓練）
 ・民間マンション清掃
 ・スーパー ・調理補助・特例子会社（清掃） ・アパレル（バックヤード）、事務補助

④ 平均工賃（1人当たり：月額）

	就労継続B型	就労移行・自立訓練
4月	9,188円	14,915円
5月	8,280円	11,540円
6月	9,791円	17,218円
7月	8,642円	15,663円
8月	6,875円	15,407円
9月	6,444円	14,993円
10月	7,200円	15,933円
11月	6,875円	12,070円
12月	6,791円	12,699円
1月	5,644円	10,364円
2月	4,913円	11,903円
3月	6,036円	15,810円
賞与	0円	0円
月平均支給額	7,199円	14,043円

⑤ 職場適応援助者(ジョブコーチ)支援制度実績・・・今年度実支援人数 10名

使用者(障害種別内訳)

(人)

知的障害			精神障害	身体障害	その他	合計
B 2	B 1	A				
4	4	1	(1)	0	1	10

※ () 重複者数

活動実績(延べ件数)

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	5	3	3	3	4	5	3	3	3	3	4	2	41
延べ支援件数	16	7	6	13	15	10	10	8	11	10	10	3	119

支援センターねぎぼうず

I 概要

令和3年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症防止に努めながら、利用者の安全・安心な活動場として事業の管理に努めました。地域の行事が制限、延期、中止となる中で、感染防止をしながら日中のスケジュールに少しでも外出や地域と関わる機会を設けました。また、行事は館内での実施に工夫を加えて、分散して行いました。ストレスや運動不足の解消に事業所として何が出来るのか、職員間で検討しながら実施、さらに検討工夫が必要な内容もあり、新年度に向けて対策も話し合いました。

II 事業内容

生活介護事業	定員20名
--------	-------

III 課題と取組み

課題

- 現員13名と少人数の上に慢性的な欠席者が出ると稼働率が下がる。
- 新型コロナウイルス感染防止にあたり、ワクチン接種の対応。
- 新型コロナウイルス感染症により、年間行事や日常の行動、地域とのかかわりに中止や延期、制限がかかる。
- グループホーム利用者の整理と検討が必要。
- 下請け仕事量や製菓販売ルートを増やす。(現在、工賃日額は以前の額より-50円で、200円で計上)

取組み

- 昨年度は一時的に稼働率が落ちましたが、今年度は少し安定した稼働率でありました。散歩等の外出を増やし、利用者の希望を多く取り入れて欠席を減らすことに努めました。日中スケジュールは散歩と地域清掃、書類の届(ポストに投函、郵便局、区役所等)の回数を増やし外出の機会に取り組みました。また、館内での行事にて、カラオケ大会、ボウリング大会、秋祭り、クリスマス会、新年会、ごくろうさん会(テーブルマナー)を実施しました。また、難波支援学校の後期実習を経て令和4年4月より1名入所が決まりました。
- 利用者・職員の新型コロナウイルス感染者はいませんでした。家族やグループホームで同居する利用者が感染し濃厚接触者となった方が数名ありました。
- 新型コロナウイルス感染防止にあたり、1回目から3回目までワクチン接種支援を実施した。

○グループホーム利用の整理と検討が必要なことから、別法人のグループホームが今年の4月から開所になり、2名が見学に行きました。本人たちは気に入るがコロナ禍の中で家族の心配が先に立ち利用につながらず。別資源の検討を継することとします。

○製菓販売の頻度が落ちるとともに、下請け業者の作業を増やしました。コロナ感染で閉所している事業所の作業が回ってきたことで収益が上がり、ボーナス支給が多い方で24,000円台と高額の支給となり、利用者皆さん喜ばれていました。新たな下請け作業や製菓販売ルート確保にSNSを利用して努めました。

IV事業概況

1 利用者の状況

①生活介護事業 (人)

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
当月入所者		1											
当月退所者		1											
生活介護	男性	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	13	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13
	利用率	46.4	42.8	49.8	52.4	52.3	53.4	53.9	47.0	50.7	50.0	47.8	51.5

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2 その他利用者情報

①障害支援区分と援護市の状況 (人)

事業名		生活介護	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
障害支援区分	区分6	2			
	区分5	4			
	区分4	7			
	区分3				
	区分2				
	区分1				
	区分なし				
援護市別利用者数		大阪市 13 名			

②年齢の状況

(人)

事業名		生活介護	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
20歳～29歳	男	2			
	女	1			
30歳～39歳	男	2			
	女	1			
40歳～49歳	男	0			
	女	2			
50歳～59歳	男	2			
	女	3			
60歳～69歳	男				
	女				
70歳以上	男				
	女				
平均	男	36.8			
	女	44			

③工賃実績・開所日

月	開所日	人数	総支払額(円)	平均金額(円)
4月	22	12	40,800	3,400
5月	23	11	39,400	3,582
6月	22	12	43,800	3,650
7月	23	12	48,200	4,017
8月	22	12	46,000	3,833
9月	22	12	47,000	3,917
10月	23	12	49,600	4,133
11月	22	12	41,400	3,450
12月	23	12	46,600	3,883
1月	23	12	44,000	3,667
2月	20	12	37,400	3,117

3 月	23	12	47,400	3,818
ボーナス	244	12	255,300	21,275
平均利用日数 工賃額	512	2,658	平均利用日数 221.5 日	平均工賃（年額） 54,785 円

3 日課と年間行事

【日課—平日】

時 間	日 課	備 考
9 : 00	送迎第 1 便	(金曜日) 14 : 00 体操 14 : 40 喫茶 16 : 00 降所
9 : 30	通所（自力通所の方）	
9 : 50	送迎第 2 便	
10 : 00	朝礼 ラジオ体操 作業開始（曜日により納品）	
11 : 00	水分補給（5 分～10 分）	
12 : 00	昼食・休憩	
13 : 00	作業開始	
14 : 00	水分補給・ラジオ体操（10 分）	
15 : 00	作業終了、水分補給	
15 : 20	送迎第 1 便	
	終礼	
16 : 00	降所（自力通所の方） 送迎第 2 便	

【日 課—土曜開所】

時 間	日 課	備 考
9 : 00	送迎第 1 便	* 土曜日 （余暇・創作的活動 ） 外部ボランティア、外出、季節の行事 等、センターカレンダーにて周知。
9 : 30	通所（自力通所の方）	
9 : 50	送迎第 2 便	
10 : 00	朝礼、ラジオ体操、水分補給 余暇・創作的活動	
11 : 00	水分補給	
12 : 00	昼食・休憩	
13 : 20	送迎第 1 便	
13 : 45	終礼	
14 : 00	降所（自力通所の方） 送迎第 2 便	

年間行事

月	内 容	月	内 容
4 月		10 月	大正区民祭り中止、日帰旅行中止 利用者健康診断
5 月	社会見学 —緊急事態宣言により中止—	11 月	利用者健康診断、予防接種 難波支援学校実習受け入れ 地域交流ミニきらめきパーティー
6 月	避難訓練	12 月	クリスマス会（午前日課） 第三者委員巡回、 冬期休所（12/29～）
7 月	難波支援学校実習受け入れ ボウリング大会	1 月	冬期休所～1/3、初詣（午前日課）、 新年会（午前日課）
8 月	夏期休所（8/13～14）	2 月	避難訓練
9 月	秋祭り（午前日課） スポーツ交流会中止、 大阪大会（東大阪市）不参加	3 月	ごくろうさん会（仕出し弁当）

※今年度も入浴サービスは中止しました。

毎月・月 1～2 回近隣公園・歩道清掃ボランティア

- ・ 25 日工賃支給日（休、祝日の時は前倒しで支給）
- ・ 第 1 水曜日（職員会議のため）午前日課
- ・ 月 1 回医師、看護師による訪問相談、バイタルチェック
- ・ 毎週金曜日 14：00～体操、14：40～喫茶サービス
- ・ 第 4 月曜日 PM保護者会（現在中止）
- ・ 隔週金曜日区役所製菓（クッキー、パウンドケーキ）販売
- ・ 毎月第 1・3 水曜は OT よる健康体操・レクリエーション（Zoom にて）

不定期

- ・ 土曜開所（月 1～2 回程度）時の調理実習は現在中止。